家ノ脇Ⅱ遺跡
原田遺跡１区
前田遺跡４区

－尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書４－

2004年３月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

家ノ脇Ⅱ遺跡
原田遺跡1区
前田遺跡4区

尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4

2004年3月

国土交通省中国地方整備局
島根県教育委員会

序

当事務所では、いわゆる斐伊川・神戸川治水計画３点セットの一翼を担う事業として、斐伊川の上流において尾原ダムの建設事業を進めています。

ダム建設事業の実施に際しては、埋蔵文化財の保護にも充分に留意すべく関係諸機関と協議しながら進めることとし、島根県教育委員会をはじめ関係各位の御協力をいただき、これら遺跡についての発掘調査を平成11年度から計画的に実施してまいりました。

この間には、数多くの貴重な遺跡や遺物が発見され、先人の技術の高さや努力の跡を目の当たりにすることができました。当報告書が掲載する家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡・前田遺跡をはじめとして、これらの調査成果が郷土の歴史教育や地域社会の諸活動などに広く活用されることを願うとともに、埋蔵文化財に対するよりいっそうの関心と御理解を得るための資料として広く役立てていただければ幸いに思います。

最後になりましたが、当遺跡の調査並びに報告書のとりまとめに関係された皆様に深く感謝申し上げます。

平成16年3月

国土交通省中国地方整備局
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所
所長　田中　靖

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局の委託を受け、平成11年度から尾原ダム建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりました。本書は、このうち平成13･14年度に発掘調査を実施しました仁多町家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡（1区）・前田遺跡（4区）の調査成果をまとめたものです。

尾原ダムが建設される斐伊川は中国山地に源を発し、日本海に向け北流することから、古くは陰陽を結ぶ交通路としての役割を担っていました。流域には、埋蔵文化財も含めて数多くの歴史的文化遺産が残されています。

本書に掲載した家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡・前田遺跡では、縄文時代から江戸時代に至る数多くの遺構、遺物などから、人々の営みの痕跡を明らかにすることができました。これらの調査成果は、この地域の歴史を解明していく上で貴重な資料となるものと考えられます。本書が、地域の歴史と文化財に対する理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

終わりにあたり、発掘調査及び本書の作成につきましては、地元の皆様をはじめ、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所、仁多町教育委員会など関係者各位より御指導・御協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

平成16年3月

島根県教育委員会

教育長　広　沢　卓　嗣

例　　言

1．本書は、国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所の委託を受けて、島根県教育委員会が平成13年度と平成14年度に実施した尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．本書で扱う遺跡は次のとおりである。

島根県仁多郡仁多町大字佐白　　家ノ脇Ⅱ遺跡
島根県仁多郡仁多町大字佐白　　原田遺跡
島根県仁多郡仁多町大字三沢　　前田遺跡

3．調査組織は次のとおりである。

調査主体　島根県教育委員会

（平成13年度）　家ノ脇Ⅱ遺跡現地調査

事務局　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）
内田　融（総務課長）今岡　宏（総務係長）川原和人（調査第二課長）

調査員　西尾克己（主幹）和田康宏（教諭兼文化財保護主事）

調査補助員　上山直志

調査指導（50音順、敬称略）
伊藤　実（広島県立歴史民俗資料館主任学芸員）
篠原裕一（栃木県埋蔵文化財センター）
杉原清一（島根県文化財保護指導委員）
竹広文明（島根大学汽水域研究センター助教授）
田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）
中村唯史（財団法人三瓶フィールドミュージアム財団指導員）
蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）
林　正久（島根大学教授）

（平成14年度）　原田遺跡・前田遺跡現地調査

事務局　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）
卜部吉博（副所長）内田　融（総務課長）川原和人（調査第二課長）

調査員　西尾克己（主幹）越智昌二（教諭兼文化財保護主事）

調査補助員　上山直志

調査指導（50音順、敬称略）
大谷晃二（島根県立松江北高等学校教諭）
杉原清一（島根県文化財保護指導委員）
竹広文明（広島大学助教授）
田中義昭（島根県文化財保護審議会委員）
中村唯史（財団法人三瓶フィールドミュージアム財団指導員）
蓮岡法暲（島根県文化財保護審議会委員）
山田康弘（島根大学助教授）
渡邊貞幸（島根大学教授）

（平成15年度）　家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡・前田遺跡報告書作成

事務局　　宍道正年（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）

卜部吉博（副所長）永島静司（総務課長）熱田貴保（調査第四係長）

調査員　　西尾克己（調査第一課長）

調査補助員　上山直志

調査指導（50音順、敬称略）

穴沢義功（たたら研究会委員）

竹広文明（広島大学助教授）

中村唯史（財団法人三瓶フィールドミュージアム財団指導員）

山田康弘（島根大学助教授）

4．発掘作業

発掘作業（発掘作業員の雇用、重機の借り上げ、発掘用具の調達等）については、国土交通省中国地方整備局、社団法人中国弘済会、島根県教育委員会の三者協定に基づき、島根県教育委員会から社団法人中国建設弘済会へ委託した。

社団法人中国建設弘済会

（平成13年度）

〔現場担当〕吉岡智哉（技術員）　〔事務担当〕藤井利恵（事務員）

（平成14年度）

〔現場担当〕吉岡智哉（技術員）・倉橋博之（技術員）　〔事務担当〕藤井利恵（事務員）

5．調査協力

現場調査と資料整理に際しては、島根県教育庁文化財課、古代文化センター、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。また、多くの方から有益な御指導、御助言をいただいた。

池田道子、会下和宏、岡野雅則、角田徳幸、神柱靖彦、北島大輔、是田　敦、佐伯純也、坂本諭司、佐々田満、澤田正明、曽田　徹、田中　強、徳岡隆夫、中森　祥、丹羽野裕、野津　旭、藤原友子、古川和明、松山智弘、馬庭範成、目次謙一、守岡正司、森村健一、柳浦俊一、米田克彦、村上　勇

6．掲図中北は、測量法による第3座標系X軸方向を指す。また、平面直角座標系XY座標は、日本測地系による。レベルは海抜高を示す。

7．第2図は国土地理院発行の1／50,000図を使用した。第3、46、121図は国土地理院の測量成果をもとに、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所とワールド航側コンサルタント株式会社が作成した1／1,000図を使用した。第4、5、42、43、47、49、54、112、119、122図は有限会社相互技研が設置した基準杭を用いて、ワールド航側コンサルタント株式会社が作成した測量図をもとに、西尾が加筆した。

8．航空写真はワールド航測コンサルタント株式会社が撮影した。

9．現地の実測図は調査員と調査補助員が作成し、写真は和田、上山が撮影した。なお、原田古墳出土の金属製品の写真は財元興寺文化財研究所の撮影による。

10．本書の執筆は調査員西尾が担当し、第4章4節と第6章・第8章は目次に記した各位にお願いした。

11．本書の編集は、調査補助員上山の協力を得て西尾が行った。

12．本書掲載の出土遺物及び実測図、写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町33番地）で保管している。

凡　　例

1　本文、挿図および写真図版の番号は一致する。

2　剥片石器、石器の計測は、最終剥離面の向きが確実に分かるものはそれに従い、不明なものは最大長さを「長さ」、これに直交する最大幅を「幅」、両者が形成する面に対する最大厚を「厚さ」として行った。

3　遺構名は整理段階で下表のように変更した。

4　参考文献としては以下のものがある。なお、本文中に、注として挙げている文献もある。

家根祥多　「篠原式の提唱－神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討」『縄紋晩期前葉－中葉の広域編年』平成4年度科学研究費補助研究成果報告書（代表研究者：林　謙作）　1994

柳浦俊一　「山陰地方縄文時代後期初頃～中葉の土器編年」『島根考古学会誌』17　2000

竹広文明　「山陰における石器石材利用をめぐる二、三の問題」『島根考古学会誌』17　2000

松本岩雄　「出雲・隠岐地区」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』木耳社　1992

赤澤秀則　『南講武草田遺跡』講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5　鹿島町教育委員会　1992

大谷晃二　「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』11　島根考古学会　1994

上田秀夫　「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号　1982

山本信夫　「中世前期の貿易陶磁器」『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会　1995

『国立歴史民族博物館資料調査報告書4－日本出土の貿易陶磁』　1993

旧　名　称	新　名　称	旧　名　称	新　名　称
SK01	SK01	SK04	流路跡1　(SX02)
SK02	SK02	SK05	流路跡2　(SX03)
SK03	消滅	SK06	流路跡3　(SX04)
土器溜り1	土器溜り1	SK20	流路跡4　(SX05)
SX01	SX01	SK21	流路跡4　(SX05)
SX02	SX01	木列	木列1
SX03	SX01		

本 文 目 次

第１章　調査経過……西尾克己……　1
第２章　歴史的環境……　3
第３章　家ノ脇Ⅱ遺跡
　第１節　調査経緯と遺跡概要……　8
　第２節　１区の遺構と遺物……　10
　第３節　２区の遺構と遺物……　19
　第４節　４区の遺構と遺物……　61
　第５節　小結……　66
第４章　原田遺跡　１区
　第１節　１区の調査経緯と遺跡概要……　115
　第２節　縄文時代の遺構と遺物……　120
　第３節　弥生時代の遺構と遺物……　156
　第４節　原田古墳に伴う遺構と遺物
　　古　　墳……西尾克己……　159
　　遺　　物
　　・武　器……藤井章徳……　164
　　・馬　具……田中由理……　168
　　……諫早直人……　170
　　・農　具……柏原龍嗣……　172
　　・耳　環……藤井章徳……　172
　　・玉　類……西尾克己……　179
　　・須恵器……　181
　第５節　奈良時代の遺構と遺物……　186
　第６節　中世の遺構と遺物……　195
　第７節　江戸時代の斐伊川に伴う遺構と遺物……　202
　第８節　小結……　204
第５章　前田遺跡　４区
　第１節　４区の調査経緯と遺跡概要……　293
　第２節　東調査区の遺構と遺物……　294
　第３節　西調査区の遺構と遺物……　296
　第４節　小結……　302
第６章　原田遺跡出土の縄文土器について……柳浦俊一……　313
第７章　仁多郡における後期古墳の様相－原田古墳の位置付け－……西尾克己……　319
第８章　装飾付大刀と金銅装馬具の評価……松尾充晶……　327

第９章　自然科学分析
第１節　家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡の立地……中村唯史…… 339
第２節　原田遺跡埋設土器の土壌分析……若月利之・三浦聡子…… 344
第３節　家ノ脇Ⅱ遺跡における自然科学分析……渡辺正巳…… 346
第４節　原田遺跡における自然科学分析……渡辺正巳…… 352
第５節　家ノ脇Ⅱ遺跡出土須恵器の蛍光Ｘ線分析……三辻利一…… 359
第６節　原田遺跡出土須恵器の蛍光Ｘ線分析……三辻利一…… 362
第７節　家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡出土中世須恵器の胎土分析……白石　純…… 365

挿　図　目　次

第１図　家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡・前田遺跡と周辺の主要遺跡位置図…… 2
第２図　斐伊川上流域の主要遺跡位置図…… 4
第３図　家ノ脇Ⅱ遺跡と周辺の地形…… 9
第４図　家ノ脇Ⅱ遺跡（１・２・４区）の調査区…… 10
第５図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区北調査区河床跡測量図…… 11
第６図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区土器溜り１出土弥生土器実測図…… 12
第７図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区 SK01・SK02 出土土器（須恵器）実測図…… 13
第８図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区・４区出土縄文土器（深鉢・浅鉢）実測図…… 14
第９図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区・２区・３区出土縄文土器・土製耳飾実測図…… 15
第10図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区出土　弥生土器・土師器、４区出土土師器・手捏土器・須恵器実測図…… 16
第11図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区・２区（SK05）、４区出土石器（槌石・磨石・石錘・磨製石斧・楔形石器・紡錘車）実測図…… 17
第12図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区南側（A－11～C－11 付近）木列・木列出土土師器（鉢）実測図… 20
第13図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区北側トレンチ北壁・東壁セクション図…… 21
第14図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）実測図…… 23～24
第15図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡実測図…… 25～26
第16図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）遺物出土位置図…… 27
第17図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡遺物出土位置図…… 28
第18図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土弥生土器・土師器実測図…… 29
第19図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（蓋）実測図…… 30
第20図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（坏）実測図…… 31
第21図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（高坏・壷・平瓶）実測図… 32
第22図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土須恵器（提瓶・甕）実測図… 33

第23図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土須恵器（蓋）実測図…… 34
第24図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土須恵器（坏）実測図…… 35
第25図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土須恵器（高坏・壺・甕）実測図…… 36
第26図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土須恵器実測図…… 37
第27図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図…… 38
第28図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図…… 39
第29図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図…… 40
第30図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甑）実測図…… 41
第31図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土竈実測図…… 42
第32図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土土師器（高坏・坏・盌・甕）実測図…… 43
第33図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器実測図…… 44
第34図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器（甕）実測図…… 45
第35図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器（壺・甕）実測図…… 46
第36図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図…… 47
第37図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器（甕・甑）・土製支脚（C-14）実測図…… 48
第38図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土土師器（甕）実測図…… 49
第39図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土竈実測図…… 50
第40図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区出土木製品・土錘実測図…… 51
第41図　家ノ脇Ⅱ遺跡１・２区出土陶磁器・土器実測図…… 52
第42図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区測量図…… 63
第43図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区遺物出土位置図…… 64
第44図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区出土弥生土器実測図…… 64
第45図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区出土遺物（須恵器・土師器・製塩土器・土製支脚）実測図…… 65
第46図　原田遺跡調査区配地図…… 115
第47図　原田遺跡１区調査区…… 117
第48図　原田遺跡ＴＲ５東壁セクション図…… 118
第49図　原田遺跡１区西側遺構実測図…… 121
第50図　原田遺跡１区西側土器溜り１（縄文土器）実測図…… 122
第51図　原山遺跡１区西側ピット（P186･191）実測図…… 123
第52図　原田遺跡１区西側埋設土器（１～４）実測図…… 124
第53図　原田遺跡１区河床跡１実測図…… 125
第54図　原田遺跡１区調査区西側縄文土器出土位置図…… 126
第55図　原山遺跡１区西側出土縄文土器（埋設土器１・２）実測図…… 127
第56図　原田遺跡１区西側出土縄文土器（埋設土器３・４）実測図…… 128
第57図　原田遺跡１区西側土器溜り（１）・Ｐｉｔ191出土縄文土器（深鉢）実測図…… 129
第58図　原田遺跡１区西側土器溜り（１・２）出土縄文土器実測図…… 130
第59図　原田遺跡１区西側土器溜り（１）出土縄文土器実測図…… 131

第60図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢①）実測図…… 132
第61図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢②）実測図…… 133
第62図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢③）実測図…… 134
第63図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢④）実測図…… 135
第64図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑤）実測図…… 136
第65図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑥）実測図…… 137
第66図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑦）実測図…… 138
第67図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑧）実測図…… 139
第68図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑨）実測図…… 140
第69図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（深鉢⑩）実測図…… 141
第70図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（浅鉢①）実測図…… 141
第71図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（浅鉢②）実測図…… 142
第72図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（皿形浅鉢・浅鉢・底部）実測図…… 143
第73図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（浅鉢③）実測図…… 144
第74図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（浅鉢④）実測図…… 145
第75図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（浅鉢⑤）実測図…… 146
第76図　原田遺跡１区西側河床跡出土縄文土器実測図…… 146
第77図　原山遺跡１区原田古墳付近出土縄文土器（深鉢）実測図…… 147
第78図　原山遺跡１区東側遺物包含層出土縄文土器（深鉢）実測図…… 148
第79図　原田遺跡１区東側遺物包含層出土縄文土器（深鉢・浅鉢）実測図…… 149
第80図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土縄文土器（有孔円盤）実測図…… 149
第81図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土石器（石鏃）実測図…… 151
第82図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土石器（楔形石器）実測図…… 152
第83図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土石器（楔形石器）実測図…… 153
第84図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土石器（スクレイパー）実測図…… 154
第85図　原山遺跡１区西側遺物包含層出土石器（スクレイパー・板状の素材・剥片）実測図… 155
第86図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土石器（石斧・垂飾・石棒類）実測図…… 156
第87図　原田遺跡１区西側遺物包含層出土石器（敲石・磨石・石錘）実測図…… 157
第88図　原田遺跡１区出土弥生土器実測図…… 158
第89図　原山遺跡１区原田古墳石室実測図…… 160
第90図　原田遺跡１区原田古墳出土遺物位置図…… 161
第91図　原田遺跡１区原山古墳墳丘・石室実測図…… 162
第92図　原田遺跡１区原田古墳金属製品実測図①（双龍環頭大刀）…… 173
第93図　原山遺跡１区原田古墳金属製品実測図②（双龍環頭大刀、部分）…… 174
第94図　原田遺跡１区原田古墳金属製品実測図③（馬具、轡・杏葉）…… 175
第95図　原田遺跡１区原山古墳金属製品実測図④（馬具、雲珠・辻金具）…… 176
第96図　原山遺跡１区原田古墳金属製品実測図⑤（馬具、辻金具・鈸具・その他）…… 177
第97図　原田遺跡１区原田古墳金属製品実測図⑥（耳環・刀子・鉄鏃・鉄鏃・その他）…… 178

第98図　原田遺跡１区原田古墳金属製品実測図⑦（鉄刀・鐔）…… 179
第99図　原田遺跡１区原田古墳出土玉類（勾玉・切子玉・ガラス玉）実測図…… 180
第100図　原田遺跡１区原田古墳出土須恵器　実測図…… 182
第101図　原田遺跡１区原田古墳出土須恵器（高坏・甕・壺）実測図…… 183
第102図　原田遺跡１区原田古墳出土須恵器（壺・提瓶・甕）実測図…… 184
第103図　原田遺跡１区原田古墳・古墳付近出土須恵器　実測図…… 185
第104図　原田遺跡１区西側建物跡・斐伊川河床跡２・３測量図…… 187
第105図　原田遺跡１区斐伊川河床跡２、J－５土層断面図…… 188
第106図　原田遺跡１区西側掘立柱建物跡（SB01）実測図…… 189
第107図　原田遺跡１区西側斐伊川河床跡２出土須恵器・土師器出土位置図…… 190
第108図　原田遺跡１区西側斐伊川河床跡出土須恵器実測図…… 191
第109図　原田遺跡１区西側斐伊川河床跡出土須恵器実測図…… 192
第110図　原田遺跡１区西側出土土師器実測図…… 193
第111図　原田遺跡１区西側斐伊川河床出土土師器・製塩土器・土錘実測図…… 194
第112図　原田遺跡１区東側遺構配置図と遺物出土地点…… 196
第113図　原田遺跡１区東側石垣とトレンチ（TR4）断面実測図…… 197
第114図　原田遺跡１区東側SX01実測図…… 198
第115図　原田遺跡１区東側掘立柱建物跡（SB03・SB04）実測図…… 199
第116図　原田遺跡１区出土陶磁器・土器実測図…… 200
第117図　原田遺跡１区出土陶磁器…… 201
第118図　原田遺跡１区出土石器（硯・砥石・鉢）・金属製品（小札・銭）実測図…… 203
第119図　原田遺跡１区斐伊川河床跡（江戸時代）と石敷実測図…… 204
第120図　原田遺跡１区東側柱穴列１・２・３実測図…… 205
第121図　前田遺跡位置図…… 293
第122図　前田遺跡４区遺構図…… 295
第123図　前田遺跡４区西調査区東壁実測図…… 297
第124図　前田遺跡４区西調査区礎石（上段）・柱穴（下段）実測図…… 298
第125図　前田遺跡４区西調査区遺物出土位置図…… 299
第126図　前田遺跡４区出土遺物実測図…… 300
第127図　前田遺跡４区出土遺物実測図…… 301

表　目　次

表１　周辺の遺跡一覧表…… 5
表２　家ノ脇Ⅱ遺跡１区土器溜り・SK01出土土器観察表…… 12
表３　家ノ脇Ⅱ遺跡出土縄文土器観察表…… 18

表4　家ノ脇Ⅱ遺跡1区出土土器観察表…… 18
表5　家ノ脇Ⅱ遺跡出土石器観察表…… 19
表6　家ノ脇Ⅱ遺跡2区・4区出土土器観察表…… 54～60
表7　家ノ脇Ⅱ遺跡出土陶磁器・土器一覧…… 62
表8　斐伊川の水運と斐伊川（河床跡3）・石敷遺構（SX01）出土陶磁器の年代…… 208
表9　原田遺跡1区出土陶磁器・土器一覧…… 208
表10　原田遺跡1区出土土器観察表…… 210～220
表11　原田遺跡1区原田古墳出土玉類計測表…… 220～221
表12　原田遺跡1区出土石器観察表…… 221
表13　原田遺跡1区出土二次加工剥片、剥片観察表…… 223
表14　前田遺跡4区出土陶磁器一覧…… 299
表15　前田遺跡4区出土土器観察表…… 302

写真図版目次

図版1　上　家ノ脇Ⅱ遺跡と斐伊川（航空写真．北から）
　　下　1区南調査区（航空写真）
図版2　上　1区南調査区（北から）
　　下　1区南調査区土器溜り
図版3　上　1区南調査区土坑1
　　中　1区南調査区土坑2
　　下　1区南調査区土坑1・2（航空写真）
図版4　上　1区南調査区　斐伊川河床跡縄文土器出土状況
　　中　2区斐伊川河床跡弥生土器出土状況
　　下　2区斐伊川河床跡弥生土器出土状況
図版5　上　2区木列検出状況（南から）
　　下　2区木列検出状況（西から）
図版6　上　2区全景（北から）
　　下　2区集石・土器溜り（SX01）・立木痕
図版7　上　2区流路跡（北から）
　　中　2区集石・土器溜り（SX01）・立木痕（南から）
　　下　2区集石・土器溜り（SX01）・立木痕（東南から）
図版8　上　2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況
　　中　2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況
　　下　2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況
図版9　上　2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況

	中	2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況　最下層
	下	2区集石・土器溜り（SX01）下層の遺物と斐伊川河床跡（東から）
図版10	上	2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況
	中	2区集石・土器溜り（SX01）土器出土状況
	下	2区流路跡の土器出土状況（SX02）
図版11	上	2区流路跡（SX02）ガリ侵食と須恵器（西から）
	中	2区集石・土器溜り（SX01）（ベルトにガリ侵食が認められる。南から）
	下	2区集石・土器溜り（SX01）流木と土器の出土状況
図版12	上	2区集石・土器溜り（SX01）木器出土状況
	中	2区集石・土器溜り（SX01）木器出土状況
	下	2区集石・土器溜り（SX01）流木出土状況
図版13	上	2区流路跡（SX05）西端（西から）
	中	2区斐伊川河床跡と集石・土器溜り（SX01）
	下	2区調査区北壁土層堆積状況（南から）
図版14	上	3区土器溜り
	下左	3区集石
	下右	3区土器溜り
図版15	上	4区全景（航空写真）
	下	4区全景（北から）
図版16		1区土器溜り出土弥生土器
図版17	上	SK01出土須恵器1区・4区出土縄文土器（深鉢・浅鉢）
	下	1区・2区・3区出土縄文土器
図版18		2区出土土製耳飾・1区出土　弥生土器・土師器・4区出土　土師器・手捏土器・須恵器
図版19		2区南側（A-11～C-11付近）木列付近出土土師器（盤）集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土弥生土器・土師器
図版20		2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土弥生土器・土師器・須恵器（蓋）
図版21		2区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（蓋）
図版22		2区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（坏）
図版23		2区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（高坏・壺）
図版24		2区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土須恵器（壺・平瓶・提瓶・甕）
図版25		2区流路跡出土須恵器（蓋）
図版26		2区流路跡出土須恵器（坏）
図版27		2区流路跡出土須恵器（高坏・壺・甑）
図版28		2区流路跡出土須恵器
図版29		2区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）
図版30		2区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）
図版31		2区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕・甑）

図版32　2区集石・土器溜り（SX01）、流路跡出土土師器（甑・甕）
図版33　2区流路跡出土土師器（高坏・坏・甕・鉢）
図版34　2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土土師器
図版35　2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土土師器
図版36　2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土土師器（壺・甕）
図版37　2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土土師器（甕・甑・土製支脚・土錘）
図版38　2区集石・土器溜り（SX01）・流路跡出土土師器（甕）
図版39　4区出土弥生土器・須恵器・土師器・手捏土器
図版40　4区出土須恵器・土師器・手捏土器・製塩土器
図版41　1区・2区（流路跡）・4区出土石器（磨石・磨石・石錘・磨製石斧・楔型石器・紡錘車）
カラー図版1　上　家ノ脇Ⅱ遺跡 SX01 出土土師器（甕）
中　家ノ脇Ⅱ遺跡 SX01 出土土師器（壺）
下　家ノ脇Ⅱ遺跡流路跡出土土師器（把手付甕）
カラー図版2　家ノ脇Ⅱ遺跡・前田遺跡4区・原田遺跡1区出土陶磁器

原田遺跡
図版1　上　原田遺跡全景（航空写真，南から）
下　1区　全景（南から）
図版2　上　1区　西側　全景（東南から）
下　1区　西側　斐伊川河床跡（東から）
図版3　上　1区　西側　全景（航空写真）
下　1区　西側　縄文遺構（南から）
図版4　上　1区　西側　縄文遺構（北から）
中　1区　西側　ピット
下　1区　原田古墳南側　縄文時代の斐伊川河床跡
図版5　上　1区　西側　土器溜り1
下　1区　西側　土器溜り2
図版6　上　1区　原田古墳南側　縄文時代の斐伊川河床跡
中　1区　原田古墳南側　縄文時代の斐伊川河床跡
下　1区　原田古墳南側　縄文時代の斐伊川河床跡
図版7　上　1区　西側　埋設土器1
中　1区　西側　埋設土器1
下　1区　西側　埋設土器1（掘り方）
図版8　上　1区　西側　埋設土器2
中　1区　西側　埋設土器2
下　1区　西側　埋設土器2（掘り方）
図版9　上　1区　西側　埋設土器3
中　1区　西側　埋設土器3（掘り方）

	下	1区	西側　埋設土器4
図版10	上	1区	原田古墳と斐伊川河床跡（縄文時代）（航空写真）
	下	1区	原田古墳全景（南から）
図版11	上	1区	原田古墳調査終了時（東から）
	中	1区	原田古墳の石列と近・現代の石垣（南から）
	下	1区	原田古墳の石室（羨道付近）と須恵器（甕）出土状況（東から）
図版12	上	1区	原田古墳　環頭大刀（把頭）出土状況
	中	1区	原田古墳　勾玉・ガラス玉・須恵器出土状況
	下	1区	原田古墳　石室（玄室付近）遺物出土状況（北から）
図版13	上	1区	原田古墳　石室付近出土土器（須恵器と勾玉）
	下	1区	原田古墳　石室（玄室）内出土器（須恵器）
図版14	上	1区	西側　トレンチ（北西から）
	下	1区	西側　ピット群（縄文時代・奈良時代）
図版15	上	1区	西側　斐伊川河床跡（南より）（奈良時代）
	中	1区	西側　斐伊川河床跡（奈良時代）と土器（須恵器）出土状況
	下	1区	西側　斐伊川河床跡（奈良時代）と羽口出土状況
図版16	上	1区	東側　建物跡（南から）
	下	1区	SX01（南から）
図版17	上	1区	西側　斐伊川河床跡（東から）（左：江戸時代　右：奈良時代）
	中	1区	西側　斐伊川河床跡（北から）（奈良時代）
	下	1区	西側　斐伊川河床跡（江戸時代）・磁器出土状況
図版18	上	1区	西側　出土縄文土器（埋設土器1）
	下	1区	西側　出土縄文土器（埋設土器2）
図版19	上	1区	西側　出土縄文土器（埋設土器3）
	下	1区	西側　出土縄文土器（埋設土器4）
図版20		1区	西側　土器溜り出土縄文土器（深鉢）
図版21	上	1区	西側　土器溜り出土縄文土器（深鉢）
	下	1区	西側　土器溜り出土縄文土器（浅鉢）
図版22		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版23		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版24		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版25		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版26		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版27		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版28		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版29	上	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
	下	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（浅鉢）
図版30	上	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（浅鉢）

	下	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（皿形浅鉢・浅鉢・底部）
図版31		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（浅鉢）
図版32		1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（浅鉢）
図版33	上	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（浅鉢）
	下	1区	西側　斐伊川河床跡出土縄文土器
図版34		1区	原田古墳付近出土縄文土器（深鉢）
図版35		1区	東側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢）
図版36	上	1区	東側　遺物包含層出土縄文土器（深鉢・浅鉢）
	下	1区	西側　遺物包含層出土縄文土器（有孔円板）
図版37	上	1区	西側　遺物包含層出土石器（石鏃）
	下	1区	西側　遺物包含層出土石器（楔形石器）
図版38	上	1区	西側　遺物包含層出土石器（楔形石器）
	下	1区	西側　遺物包含層出土石器（スクレイパー）
図版39		1区	西側　遺物包含層出土石器（石斧・錘飾・石棒類・敲石・磨石・石錘）
図版40	上	1区	出土弥生土器
	下	1区	西側　出土土師器（甕）
図版41	上	1区	原田古墳出土勾玉・切子玉
	下	1区	原田古墳出土ガラス玉
図版42		1区	原田古墳出土双龍環頭大刀（佩・柄頭）
図版43		1区	原田古墳出土双龍環頭大刀（佩）
図版44		1区	原田古墳出土馬具（轡・杏葉）
図版45		1区	原田古墳出土馬具（杏葉・雲珠・辻金具）
図版46		1区	原田古墳出土馬具（雲珠・辻金具）・耳環
図版47		1区	原田古墳出土金属製品（大刀鐔・轡引手壺・鈹具・刀子・鉄鎌・鉄鏃・その他）
図版48		1区	原田古墳出土鉄刀・金属製品X線写真
図版49		1区	原田古墳出土須恵器（蓋坏・坏身）
図版50		1区	原田古墳出土須恵器（坏身）
図版51		1区	原田古墳出土須恵器（高坏）
図版52		1区	原田古墳出土須恵器（高坏）
図版53		1区	原田古墳出土須恵器（高坏）
図版54		1区	原田古墳出土須恵器（鼓・壺）
図版55		1区	原田古墳出土須恵器（壺）
図版56		1区	原田古墳出土須恵器（提瓶・甕）
図版57		1区	原田古墳出土須恵器（甕）
図版58		1区	原田古墳出土須恵器（壺・蓋・坏）
図版59		1区	西側　斐伊川河床跡出土須恵器（坏）
図版60		1区	西側　斐伊川河床跡出土須恵器（壺・把手付甕）
図版61		1区	西側　斐伊川河床跡出土須恵器（蓋・坏・転用硯）

図版62　1区　西側　斐伊川河床跡出土土師器・製塩土器・土錘
図版63　1区　出土陶磁器
図版64　1区　出土陶磁器
図版65　1区　出土石器（硯・砥石・鉢）・金属製品（銭・小札）

前田遺跡4区
図版1　上　前田遺跡4区と斐伊川（南西から）
　　下　4区全景（左は斐伊川）
図版2　上　前田遺跡と原田遺跡（北から）
　　下　4区全景（北東から）
図版3　上　4区（東調査区）調査後全景
　　下　4区（西調査区）調査後全景
図版4　上　4区（東調査区）全景（東から）
　　下　4区（東調査区）河床跡完掘状況（東から）
図版5　上　4区（西調査区）斜面完掘状況（北東から）
　　下　4区（東調査区）河床跡完掘状況（西から）
図版6　上　4区（西調査区）柱痕検出状況
　　下　3区トレンチ近景（火山灰検出状況・北壁）
図版7　4区遺物包含層出土弥生土器・須恵器・土師器・陶磁器
図版8　4区遺物包含層出土陶磁器・鉄滓・鉄製品

本文写真図版

写真1　林原遺跡付近を流れる斐伊川（北から）…… 22
写真2　家ノ脇Ⅱ遺跡2区調査風景（北から）（手前は縄文時代の斐伊川河床跡）…… 67
写真3　原田遺跡1区西側（H-6）の調査風景…… 116
写真4　昭和40年代の原山遺跡（仁多町役場保管の航空写真）…… 119
写真5　1区西側で検出された昭和の石垣（東南から）…… 120
写真6　1区原田古墳の石室に使用された石…… 159
写真7　1区鍛冶炉（SB01の内部に所在する）…… 186
写真8　1区江戸時代の石敷と斐伊川河床跡3（手前の砂層）…… 198
写真9　1区西側の石垣状石積み（SX02、北東から）…… 203
写真10　1区柱穴列（左は柱穴列1・2、右は柱穴列3）…… 205

第6章　図表目次

第1図　晩期前半の編年（案）…… 314～315
第1表　型式対照表…… 316

第7章　図表目次

第1図　仁多郡内の横穴式石室分布図…… 319
第2図　寺谷尻古墳・白石迫古墳・吉ケ口古墳測量図…… 320
第3図　穴観2号墳墳丘測量図…… 321
第4図　斐伊川上流域の横穴石室変遷図…… 322
第1表　仁多郡内の横穴石室分布図…… 323

第8章　図表目次

第1図　原田古墳環頭大刀の位置付け…… 328
第2図　原田古墳出土馬具構成図…… 330
第3図　類例杏葉・鏡板との比較…… 331
第4図　轡（鏡板と衡）の連結方法分類…… 332
第5図　出雲地域の装飾大刀と馬具構成①（出雲3期）…… 334
第6図　出雲地域の装飾大刀と馬具構成②（出雲4期以降）…… 335
第1表　出雲東西の首長墳と仁多郡周辺の主要古墳…… 334

第9章　第1節図表目次

第1図　原田遺跡の位置と地形的断面…… 339
第2図　縄文時代晩期遺構面下の層序…… 340
第3図　奈良時代の河道を埋積する堆積物…… 341
第4図　時代毎の河床高度の変化模式図…… 342

第9章　第2節図表目次

第1表　標本土壌分析結果…… 345
第2表　標本土壌土色…… 345

第３表　土壌サンプル…… 345

第９章　第３節図表目次

第１図　試料採取地点…… 346
第２図　No１地点の植物珪酸体ダイアグラム…… 347
第３図　No３地点の花粉ダイアグラム…… 349
第１表　No３地点の花粉組成表…… 350
第２表　No１地点の植物珪酸体組成表…… 351

第９章　第４節図表目次

第１図　試料採取地点…… 352
第２図　No１地点の花粉ダイアグラム…… 356
第３図　No２地点の花粉ダイアグラム…… 357
第４図　No３地点の花粉ダイアグラム…… 357
第５図　No１地点の植物珪酸体ダイアグラム…… 358
第６図　No２地点の植物珪酸体ダイアグラム…… 358
第７図　No３地点の植物珪酸体ダイアグラム…… 358
第１表　^{14}C年代測定値…… 354

第９章　第５節図表目次

第１図　家ノ脇Ⅱ遺跡出土須恵器の両分布図…… 360
第２図　家ノ脇Ⅱ遺跡出土須恵器の産地推定…… 361
第１表　家ノ脇Ⅱ遺跡出土須恵器の分析データ…… 361

第９章　第６節図表目次

第１図　原田遺跡出土須恵器の両分布図…… 362
第２図　原田遺跡出土須恵器の山地推定…… 363
第３図　大井群と出雲Ｘ群の相互識別…… 364
第２表　原山遺跡１区出土須恵器の分析データ…… 364

第9章　第7節図表目次

第1図　家ノ脇Ⅱ・前山・原山遺跡出土瓷の産地推定（K-Ca散布図）…… 367
第2図　家ノ脇Ⅱ・前田・原田遺跡出土瓷の産地推定（Ti-Ca）…… 367
第3図　家ノ脇Ⅱ・前田・原田遺跡出土瓷の産地推定（Zr-Sr）…… 368
第4図　家ノ脇Ⅱ・前山・原山遺跡出土瓷の産地推定（Al-Si）…… 368
第1表　各遺跡出土試料の各散布図による産地推定一覧表…… 365
第2表　各窯跡の分析試料平均値と標準偏差（%）…… 366
第3表　家ノ脇Ⅱ・前山・原山遺跡出土須恵器の胎土分析一覧表（%）…… 366

第1章　調　査　経　過

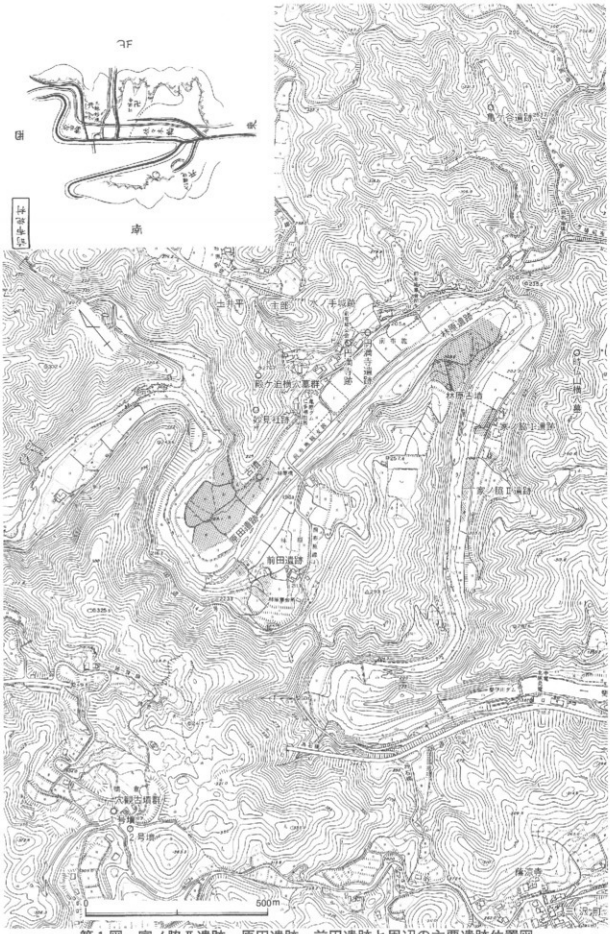
平成3年6月、建設省中国地方建設局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所（現国土交通省中国地方整備局斐伊川・神戸川総合開発工事事務所）から島根県教育委員会に対し、埋蔵文化財調査の依頼があった。これを受けて、島根県教育委員会では平成5年3月と平成6年3月の2回に亘り分布調査を実施した。この調査では、仁多町教育委員会と木次町教育委員会の協力を得て、合計181箇所の遺跡を発見し、併せて要確認調査地も設定した。

平成10年12月、島根県教育委員会と仁多町、木次町の両教育委員会で協議を行い、①　確認調査のため再度分布調査を行うこと、②　当初は基本的にダム本体部分を県教育委員会が調査を行い、残土処理場や付け替え道路等の付帯設備部分は両町教育委員会が対応すること、③　今後の調査分担は調査状況や各機関の調査体制に応じて調整することの3点を確認した。さらに、平成11年3月に行われた2度目の分布調査により、新たに32箇所の遺跡と要確認調査地を設定した。この結果、遺跡および要確認調査地は合計113箇所となった。

確認調査は、県教育委員会が平成11年度に11箇所、同12年度に20箇所を行い、本報告書に収録の家ノ脇Ⅱ遺跡は平成11年度に、原田遺跡と前田遺跡は平成12年度に実施し、3箇所ともに全面調査が必要と判断された。本調査は、平成12年に木次町北原の垣ノ内遺跡と川平Ⅰ遺跡を、平成13年度には木次町垣ノ内遺跡、家の後Ⅰ遺跡、尾白遺跡、横ヶ峠遺跡と仁多町佐白の家ノ脇Ⅱ遺跡を、平成14年度には木次町北原の家の後Ⅱ遺跡、北原本郷遺跡、宮ノ脇遺跡と仁多町佐白の原田遺跡、同町三沢の前田遺跡を対象とした。

本書で報告する家ノ脇Ⅱ遺跡は斐伊川沿いの水田跡に所在する土器散布地で、5,700㎡が対象である。原田遺跡は斐伊川の河岸段丘上に位置し、土器散布地と古墳1基があり、面積は29,800㎡で、平成14年度はそのうちの古墳と遺跡の東部分2,200㎡の調査を行った。前田遺跡は原田遺跡の対岸に位置し、河岸段丘と斐伊川沿いの低地にある土器散布地で、平成14年度に発掘調査を実施した。本報告書には、7,800㎡の内、斐伊川に接する水田跡の4区1,310㎡を報告している。なお、1～3区は担当者が異なり、報告書は平成15年度に刊行を予定している。

遺跡位置図



第１図　家ノ脇Ⅱ遺跡・原田遺跡・前田遺跡と周辺の主要遺跡位置図
（左上の図は『仁多郡誌』1919年より転載）

第2章　歴史的環境

尾原ダムは、斐伊川中流域の大原郡木次町北原から仁多郡仁多町三成に及ぶ広域が対象となっている。このダム予定地周辺部は、『出雲国風土記』（以下、『風土記』と記す）が書かれた奈良時代から昭和30年までは（木次町北原も仁多郡温泉村であったため）仁多郡に属していた。今回報告する3遺跡は仁多町内の大字佐白と三沢に位置し、『風土記』の仁多郡布勢郷、三澤郷にあたり、斐伊川沿いに立地する。

以下、各時代別に周辺の遺跡を紹介し、斐伊川流域の歴史的環境を概観してみたい。

旧石器時代　この時代の遺跡は奥出雲地方では発見されておらず、石器も確認されていない。今のところ、宍道湖・中海周辺において、10数遺跡で石器が出土しているにすぎない。

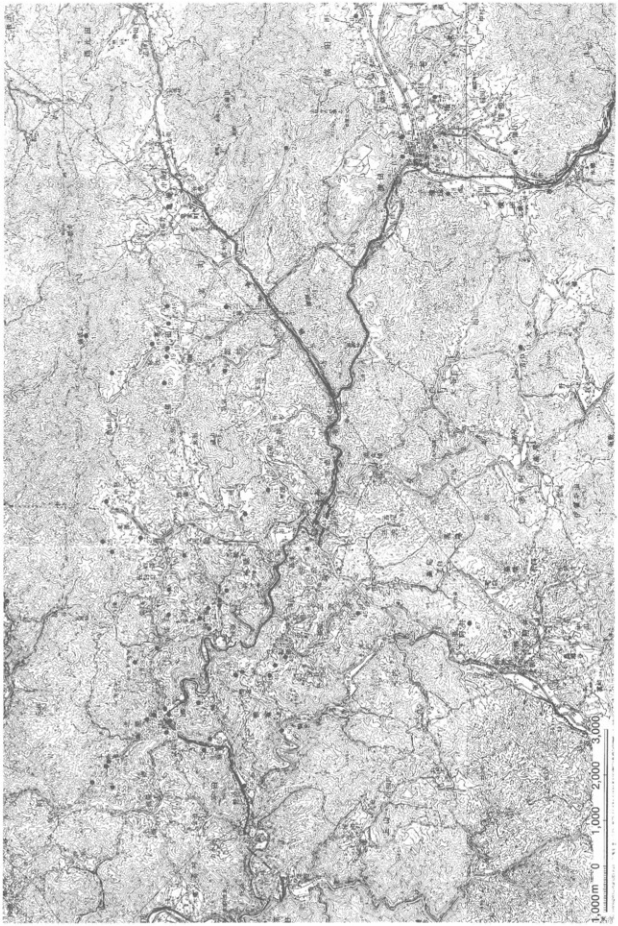
縄文時代　前代とは大きく異なり、斐伊川流域では縄文時代の遺跡は多く発見されている。今回報告する家ノ脇Ⅱ遺跡、原田遺跡、前田遺跡においても、大量の縄文土器が出土している。また、尾原ダム周辺にも著名な遺跡が多く点在し、仁多町では暮地遺跡、林原遺跡、下鴨倉遺跡などが、木次町温泉地区では川平Ⅰ遺跡、垣ノ内遺跡、家の後Ⅰ遺跡、横ケ峠遺跡、平田遺跡などが知られている。

仁多町暮地遺跡は後期を中心とする遺跡で、埋設土器2基と土偶3個が知られている。中期から晩期にかけての土器が出土している林原遺跡でも土偶が1個発見されている。下鴨倉遺跡は斐伊川支流の阿井川の段丘にある前期から晩期にかけての遺跡であり、建物跡3棟、土坑1基、配石遺構9基が検出されている。特に、大型の建物跡は石器製作跡の可能性があるという。木次町川平Ⅰ遺跡は斐伊川沿いにあり、遺構としては土器溜り1か所、落とし穴2基、土坑16基（内8基に集石をもつ）、ピット38穴が検出されている。土器は、早期から晩期までのものが出土しており、中でも押型文土器の存在が注目される。垣ノ内遺跡は斐伊川支流の下布施川沿いにあり、遺構は検出されていないものの、中期の土器がまとまって出土している。家の後Ⅰ遺跡は斐伊川沿いの段丘にあり、中期から後期にかけての土器がまとまって発見されている。遺構は確認されていない。横ケ峠遺跡は斐伊川沿いの山腹にある遺跡で、落とし穴を含む土坑やピットが検出され、後期、晩期の土器が少量出土している。平田遺跡は斐伊川と阿井川の合流地点に存在する後期から晩期の遺跡であり、配石遺構や土坑墓8基、埋設土器1基が検出されている。

弥生時代　斐伊川上流域の弥生時代の遺跡としては、仁多町鹿谷遺跡、横田町国竹遺跡、代山遺跡、横田高校グランド遺跡、日焼用遺跡がよく知られている。また、中流域では仁多町暮地遺跡、木次町垣ノ内遺跡、北原本郷遺跡、平田遺跡において、最近の調査により竪穴住居跡が確認され、さらに、尾原ダムの確認調査でも各遺跡から弥生土器が少なからず発見されている。ただし、縄文時代の遺跡と比べると遺物量は少なく、遺跡の密度も希薄である。

垣ノ内遺跡では中期から後期にかけて15棟の竪穴住居跡が検出された。土器の中には中期の塩町式土器も存在し、備後地方との関係も注目されている。

古墳時代　斐伊川上流域においては、古墳時代前期、中期の古墳は発見されていなかった。近年、仁多郡大字三成で、15基からなる須坂古墳群が確認されており、立地や形態から当地域で最も古い時期の古墳の可能性が考えられる。中期末頃の古墳としては、2基からなる仁多町大字三成の丸



第２図　斐伊川上流域の主要遺跡位置図（１／100,000）

表1　周辺の主要遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	番号	遺跡名	種別
1	家ノ脇Ⅱ遺跡	散布地	35	殿ケ迫横穴墓群	横穴墓
2	原田遺跡	古墳・集落跡	36	林原古墳	古墳
3	前田遺跡	散布地	37	林原遺跡	散布地
4	代山遺跡	散布地	38	時仏山横穴墓	横穴墓
5	横田高校グランド遺跡	散布地	39	穴観古墳群	古墳
6	伊賀多気神社前遺跡	散布地	40	須坂遺跡	古墳・横穴墓他
7	藤ケ瀬城跡	城跡	41	石原城跡	城跡
8	国竹遺跡	集落遺跡	42	幕地遺跡	散布地・住居跡
9	上方林遺跡	祭祀遺跡	43	丸小山古墳群	古墳
10	白石迫遺跡	古墳	44	郡屋敷古墳	古墳
11	吉ケ口古墳	古墳	45	八重塚横穴墓群	横穴墓
12	鹿谷遺跡	散布地	46	比丘尼原横穴墓群	横穴墓
13	鍋坂城跡	城跡	47	どけや古墳	古墳
14	琴枕岩屋古墳	古墳	48	布広城跡	城跡
15	宮前遺跡	散布地	49	三沢城跡	城跡
16	岩屋古墳	古墳	50	下鳴倉遺跡	散布地
17	高田廃寺	寺院跡	51	寺谷尻古墳	古墳
18	常楽寺古墳	古墳	52	枯木ケ谷炉跡	製鉄遺跡
19	芝原遺跡	製鉄遺跡	53	ゴマボリ炉跡	製鉄遺跡
20	カネツキ免遺跡	散布地	54	寺田Ⅰ遺跡	製鉄遺跡
21	伝仁多郡衙跡	郡衙跡	55	下布施横穴墓群	横穴墓
22	金床横穴墓	横穴墓	56	垣ノ内遺跡	集落跡
23	コフケ横穴墓	横穴墓	57	下布施氏館跡	城跡
24	堂の前古墳	古墳	58	宮ノ脇遺跡	散布地
25	穴観音古墳群	古墳	59	北原本郷遺跡	集落跡
26	三出平古墳	古墳	60	家の後Ⅰ遺跡	散布地
27	長福寺遺跡	散布地	61	家の後Ⅱ遺跡	集落跡
28	尾白横穴墓群	横穴墓	62	川平Ⅰ遺跡	集落跡
29	上布施横穴墓群	横穴墓	63	槙ケ峠遺跡	製鉄遺跡
30	佐白城跡	城跡	64	上垣内たたら跡	製鉄遺跡
31	尾白Ⅰ遺跡	散布地	65	家の上遺跡	祭祀遺跡・製鉄遺跡
32	すげた横穴墓群	横穴墓	66	平田遺跡	散布地・製鉄遺跡
33	水ノ手城跡	城跡	67	川子原横穴墓	横穴墓
34	円満寺遺跡	寺院跡・祭祀遺跡			

子山古墳群がある。小規模な円墳で、主体部は木棺直葬であり、1号墳には玉類や須恵器が供献されていた。この時期の古墳は、数が少ないものの、この斐伊川上流域にも古墳を築く勢力が存在していたことを物語っている。

後期に入ると、横穴式石室をもつ古墳が各地で出現する。仁多町では、仁多郡で唯一の前方後方墳である大字三沢の穴観2号墳が丘陵上に築かれている。墳丘は全長29mで、長さ7.5mの横穴式石室をもつ。隣接する1号墳は円墳で、同様の規模の石室をもつ。三成には斐伊川の段丘上に郡屋敷古墳があり、羨道部は失われているが、3.3mの玄室をもつ。大字布施には、丘陵上に穴観音古墳がある。全長5.6mの横穴式石室をもつ。大字亀嵩では人形、馬形埴輪が発見された6世紀代の常楽寺古墳や全長7mの横穴式石室をもつ岩屋古墳がある。また、横田町でも馬木川流域に横穴式石室をもつ古墳が多く分布しており、その内の吉ケ口古墳と白石迫古墳は発掘調査が行われ、小規模な墳丘に小さい石室をもつことが確認されている。

後期の墳墓としては、横穴墓が多く分布し、山腹の花崗岩の風化層に穿たれている。仁多郡内では30群以上が知られ、6世紀中頃から7世紀前半までに集中している。形態は平面縦長長方形プランで、断面三角形を呈している。近年、尾原ダム建設に伴い仁多町大字佐白の殿ケ迫横穴墓群、時仏山横穴墓、伊賀武社境内横穴墓、また、木次町大字北原の下布施横穴墓群が各町教育委員会により発掘調査されている。殿ケ迫横穴墓群は原山遺跡の背後の山であり、6世紀後半から7世紀前半の横穴墓7穴が存在した。後背墳丘を伴う3号穴は最初に掘られたもので、50歳頃の女性の人骨が検出された。副葬品には耳環2個、メノウ製勾玉1個、ガラス小玉3個、須恵器がある。時仏山横穴墓は家ノ脇遺跡の裏山にあたり、人骨と共に赤メノウの勾玉6個、水晶の切子玉4個、ガラス小玉46個が出土した。下布施横穴墓群にも後背墳丘が2基あり、小横穴1穴を含む5穴からなり、6世紀後半から7世紀前半に営まれている。また、1号穴からは装飾大刀1本が出土している。柄に葛を巻き、柄頭には黒漆を塗り、さらに、その上に金箔、銀箔を貼ったものである。この穴からは他に、耳環2個、刀子2本、鉄鏃8本、須恵器、土師器が副葬されていた。

奈良・平安時代　尾原ダム予定地は、733年（天平5）の『風土記』によれば仁多郡布施郷と三澤郷にあたる。近代まで斐伊川を境に村の境界が存在していたことも考慮すると、大字佐白の家ノ脇遺跡や原田遺跡は布施郷に、大字三沢の前田遺跡は三澤郷に属していたと推定される。

当時、仁多郡の政治の中心は郡家が置かれた三処郷であり、今の仁多町郡村（こおりむら）に郡役所はあったと考えられている。大領原や内裏原という地名も残っており、常楽寺古墳の隣接地にある芝原遺跡からは鍛冶遺構が検出され、「厨」と書かれた奈良時代の墨書土器も出土している。また、郡村の谷部に立地するカネツキ免遺跡からは、墨書土器とともに装飾された円面硯や冠を被った人形の頭が出土している。これらの遺物は郡役所の存在を裏付ける。

『風土記』記載の神社としては10社が記載されている。その内、2社が官社で、他の8社は国社である。官社の一つに三澤社がある。また、『風土記』の三澤郷の条には、阿遅須伎高日子命が三澤の湧き水で禊ぎをしたことにより、三澤の地名由来となったという。また、出雲国造が神吉詞を奏上するために、朝廷に参向する際にはその水を浄めに用いるという。三澤については諸説があり、斐伊川沿いと考えられるが、場所が特定されていない。なお、祭祀にかかわる遺跡としては、木次町平田の斐伊川の河岸段丘にある家の上遺跡が調査され、配石遺構から土馬や手捏土器、土玉が出土し、水辺の祭祀跡と考えられている。なお、家ノ脇遺跡と原田遺跡との中程に位置する円満

寺遺跡から、7世紀後半から8世紀にかけての土器溜りが検出されている。巨石に囲まれた9×7mの狭い中に、土師器や須恵器など日常の土器を大量に廃棄している。また、土馬も発見され、遺構が水がしみ出る所にあるので、何らかの水に関わる祭祀と考えられている。

『風土記』は仁多郡内の四郷（三処・布勢・三澤・横田）について、「以上の各郷から産出される鉄は、その質が固くて、種々の器具を作ることができる」と記している。今のところ、奈良時代の鉄・鉄器生産にかかわる遺跡としては、前記した芝原遺跡の他に木次町北原の寺田Ⅰ遺跡で鍛冶遺構が、平安時代の遺跡としては木次町尾原の標ケ峠遺跡で製鉄遺構が確認されている。

鎌倉・室町時代　鎌倉時代初めまでの仁多郡についての資料は乏しく、また、遺跡も確認されておらず、詳細は不明である。

承久3年（1221）に起こった承久の乱により、出雲国にも東国の御家人が配置された。仁多郡では、信濃国の御家人である飯島氏が、乱の戦功により三沢郷に所領を得た。同氏が実際に三沢郷に移り、所領経営に乗り出したのは鎌倉時代末である。三沢郷を奥点に隣接する阿井郷・布施郷・三所郷に支配領域を広げ、三沢を名乗り、室町時代には斐伊川上流域の横田庄にも進出した。三沢氏の城は仁多町三沢の標高418mの要害山に築かれた三沢城である。三沢氏は、奥出雲の鉄生産と流通とを掌握し、経済基盤とした。さらに、支配地内には山城を築き、出雲国で守護代の尼子氏に次ぐ国人に成長していった。なお、三沢氏の居城は永正6年（1509）、横田庄内の横田町横田に藤ケ瀬城が築かれるまで三沢城であった。しかし、天文12年（1543）には尼子氏に屈したものの、その後も尼子氏に次ぐ勢力を保ち続けていた。永禄9年（1566）の尼子氏滅亡後は毛利氏に属し、天正17年（1589）には安芸国に移った。

江戸時代　慶長5年（1600）の関ヶ原の戦い後、松江藩が成立し、堀尾氏、京極氏を経て、松平氏が入部する。この頃には、奥出雲の製鉄はますます盛んになり、横田の絲原家、仁多の櫻井家、吉田の旧部家などの著名な鉄山師が現れ、大秤鞴を備えた高殿のたたらで大規模な生産を開始する。これらに使用する砂鉄は中国山地の花崗岩を原料とした鉄穴流しによるものである。砂鉄の採取のために流された砂の堆積により河川の河床が上昇し、斐伊川流域は度々大洪水に見舞われることとなった。一方、砂川になった斐伊川では、松江藩が寛文4年（1664）、三成町に川舟の解纜所を設け、「川方」と呼ばれる役所を置いた。それ以降、三成から大原郡木次間に舟運が始まり、米をはじめ鉄などが下流域に運ばれ始めた。しかし、洪水による砂川床の埋没により享保年間（1716～1736）に中絶した。その後、天保14年（1844）に再開する計画が挙がったが、経費等の都合で実行されなかったという。

参考文献

『仁多郡誌』1919
『三成村誌』1934
『仁多町誌』1999
『新修木次町誌』2004

第3章　家ノ脇Ⅱ遺跡

第1節　調査経緯と遺跡概要

調査経緯　家ノ脇Ⅱ遺跡は平成5年3月の分布調査で発見された遺跡で、土師器などの遺物散布地である家ノ脇遺跡として21,000㎡が要範囲確認調査地となった。この確認調査は平成11年9月と10月にかけて島根県埋蔵文化財調査センターが行い、その結果、全面調査の対象は8,200㎡となった。なお、遺跡は2カ所に分かれるために、北側2,500㎡は家ノ脇Ⅰ遺跡、南側5,000㎡は家ノ脇Ⅱ遺跡とした。

家ノ脇Ⅱ遺跡は三沢布施線の橋脚工事にかかるため平成13年4月10日から12月21日まで発掘調査を行った。発掘は斐伊川沿いの水田跡で実施し、南側を1区、北側を2区と呼ぶこととした。発掘は1区から始め、随時北に調査区を拡大した。2区は1区の終了後、6月21日から開始した。ただし、調査区の中程は東側の谷合から流れた土石が厚く堆積していたが、遺構、遺物は認められなかった。また、発掘と並行して、遺構の残り具合と遺跡の範囲を確認するため調査地の東側にあたる山麓と、遺跡が広がると思われる1区の東側の山腹には新たにトレンチ16個を入れた。その結果、山麓の宅地跡で集石と須恵器、土師器が発見され、さらに、1区東側の山腹では縄文土器、須恵器がまとまって出土した。これにより、調査対象地は4カ所となり、前者の540㎡を3区、後者の520㎡を4区とし、引き続き調査を行った。

調査面積は最終的には4,000㎡となった。

なお、3区は9月18日から11月12日までの発掘調査を行ったが、この間は2班体制とした。よって、報告書も別冊として既に刊行されている（注1）。

注1　『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書1』国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会　2003年3月

遺跡の概要　家ノ脇Ⅱ遺跡は仁多郡仁多町大字佐白に所在し、斐伊川右岸の狭隘な谷間に立地する。標高は200メートル前後で、調査前は、1、2、4区は水田跡、3区は宅地跡であった。古代以前は、この谷間は総て斐伊川とその河川敷となっており、遺構も斐伊川と関わるものと考えられる。遺物としては縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器等が出土している。また、山麓が住居として利用され始めたのは陶磁器からすると中世からであり、江戸時代初期以降は民家が存続していたと推定される。

【1区】調査区の南にあたり、430㎡を対象とした。弥生時代後期の土器溜り1カ所と古墳時代後期の土坑2基が確認された。また、弥生時代後期から古墳時代にかけての河川敷も検出した。本書掲載の調査区。

【2区】1区の北側にあたり、調査面積は1,830㎡である。縄文時代、弥生時代、古墳時代の河川敷それぞれ1面ずつ検出した。縄文時代の河原は、三瓶太平山降下火山灰の下層に存在するため、3,600年以前のものと考えられる。遺構は古墳時代後期の木列と土器と石の堆積（SX01）および谷間からの流路（SX02～04）に伴う土器溜りを検出した。本書掲載の調査区。

【3区】2区の東側にあたり、山裾に位置する。古墳時代後期の集石遺構と土器溜りを確認した（写真図版14）。なお、2区の土器溜りと関連するものと推定される。

第３図　家ノ脇Ⅱ遺跡と周辺の地形（１／2,000）

【４区】１区の東側にあたり、山腹の棚田跡に位置する。遺構は検出されなかったが、縄文時代から奈良時代の遺物をもつ包含層が確認された。これらの出土品は山腹上方から流れ出た遺物と考えられる。また、鉄穴流しにかかる流路跡の一部も認められた。

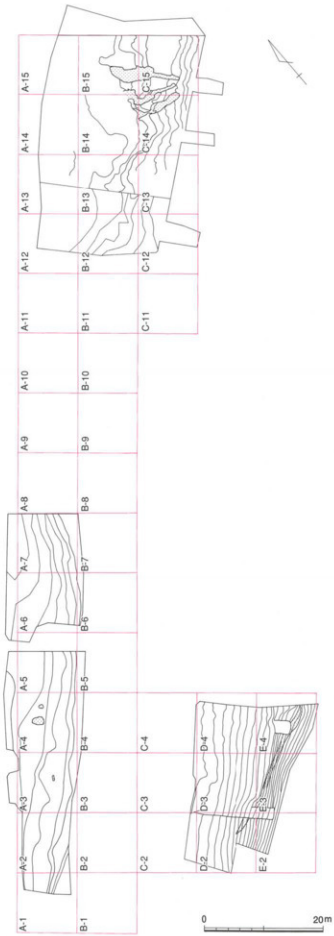
第２節　１区の遺構と遺物

１区は調査区の南端に位置する。川沿いの水田跡で、弥生時代後期から古墳時代にかけての斐伊川の河川敷を検出した。標高199ｍ付近の斜面には拳大の礫がぎっしり堆積している。その西側198ｍの川沿い側は緩やかとなり、巨石が多く認められる。よって、川岸から川の底部の部分が調査区に当たっていると推定される。拳大の礫が堆積する斜面と巨石が転がる川底との比高差は２ｍを測る。当時の川幅は今より広く、深さも浅かったと考えられる。

遺構　弥生時代後期後半の土器溜り１カ所と古墳時代後期の土坑２基を確認した。

土器溜り（第６図、図版２）

調査区の南側のＡ－２にあり、当時の斐伊川の河川敷きに位置する。１ｍの範囲に、川石１個と土器４個が砂の上に置かれた状態で発見された。土器溜りの土器は黒色砂層とその上の黄色砂層から出土している。土器の表面も風化が少ないため、置かれて後、早い段階で、砂が覆い、埋没したものと



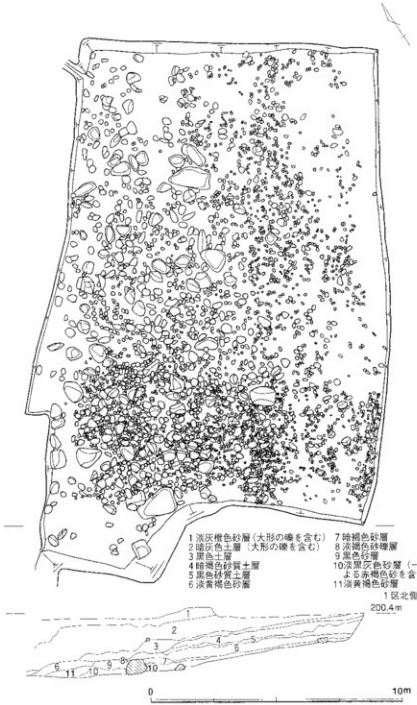
第４図　家ノ脇Ⅱ遺跡（１・２・４区）の調査区

推定される。

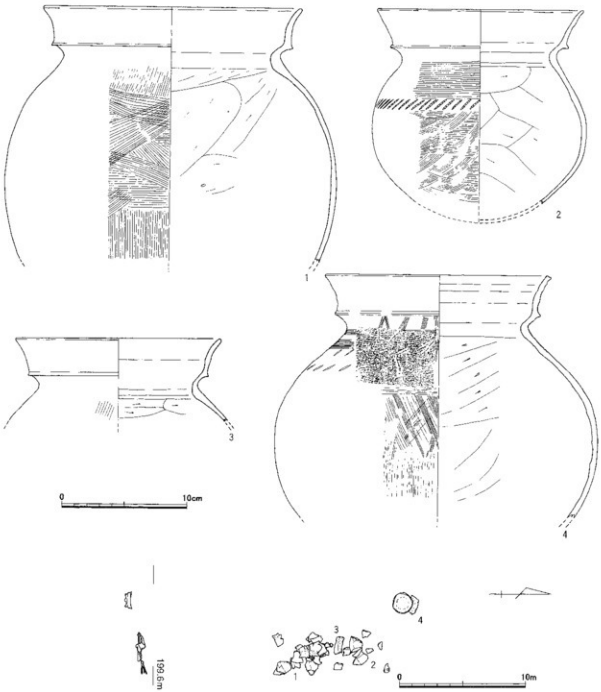
土器（第６図）は４個とも甕形である。複合口縁で、口縁部はやや外反する。体部は球形で、２、４は肩部に櫛状工具による平行沈線と貝殻腹縁による刺突文を施す。時期は草田５、６期で、弥生時代後期末である（注１）。

土坑（SK01、第７図、図版３）

土器溜りの北側にあたり、調査区はA－３である。平面プランは楕円形で、1.8m×1.4m、深さ0.5mの大きさである。土層は３層からなり、下層に小礫を含む砂層があり、上層は少量礫を含む



第５図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区北調査区河床跡測量図（１／150）



第６図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区土器溜り１・出土弥生土器実測図（１／３）

表２　家ノ脇Ⅱ遺跡１区出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
6	1	家16	A-2	上器溜り	弥生土器	甕	20.6	-	-	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目		煤付着
6	2	家16	A-2	上器溜り	弥生土器	甕	16.2	(17.0)	-	全面：にぶい橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目	胴部に平行沈線文と円形浮線による有突文を施す。	煤付着
6	3	家16	A-2	上器溜り	弥生土器	甕	16.4	-	-	全面：浅黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
6	4	家16	A-2	土器溜り	弥生土器	壺	17.8	-	-	全面：橙色	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目	胴部に擬状工具による半行沈線文とヘラによる斜突文を施す。	
7	1	家16	A-1	SK01	須恵器	高杯	13.5	9.6	-	全面：灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	長方形の透かし二カ	

砂層である。遺物としては、須恵器の高坏が１個あり、土坑の上層に置かれた状態で発見された。他に、須恵器壺片２個と土師器片１個が出土している。時期は古墳時代後期で、須恵器は出雲４期か、５期である。２区の土器溜りと同じ頃といえる。

２個の土坑は、堆積した砂層の上から掘り込まれ、大きさや内部の土砂の様子が似ており、相前後して掘られたものと考えられる。しかし、性格については不明である。

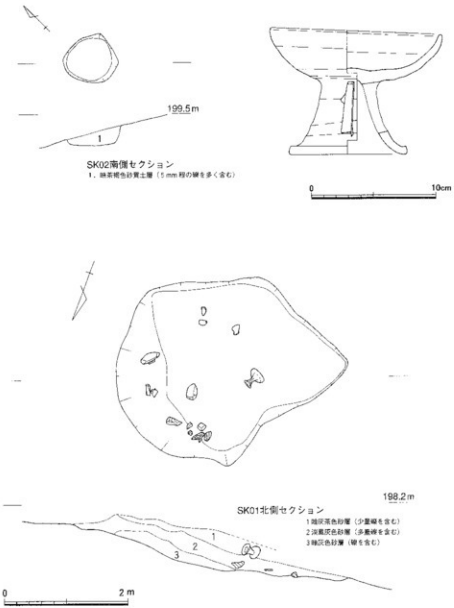
土坑（SK02、第７図、図版３）

調査区の中央のA－３にあり、平面プランは楕円形で、1.0m×0.5m、深さ0.5mの大きさである。土層は砂層である。遺物は発見されなかった。

１区の遺物　縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器がある。

縄文土器（第８、９図、図版17）

少量で、ほとんどが細片である。河川敷きの川砂利の上面で出土しているものが多く、摩滅が少



第７図　家ノ脇Ⅱ遺跡１区 SK01・SK02実測図・SK01出土土器（須恵器）実測図（１／３）

ないので、二次的に斐伊川に流され、早い段階に埋もれた土器である。第9図2、4の後期の鉢、11･12の晩期凸帯文の鉢などがある。12は2条凸帯をもち、図化したのは胴部の凸帯である。第8図3は1区の南端の鉄穴流しにより堆積した砂礫層から出土しており、近世に東側の斜面から二次的に流入した土器である。磨消縄文の鉢で、表面には暗赤色のベンガラが塗られている（注2）。

弥生土器（第10図、図版18）

後期後半を中心とする時期に限られ、甕形土器が大半を占める。3～6は九重式、1、2、7、8は草山5、6である。6は北調査区から出ており、大きな破片である。4は小型の高坏の脚部か、蓋の上部かである。南調査区の斐伊川沿いから出土している。

土師器（第10図、図版18）

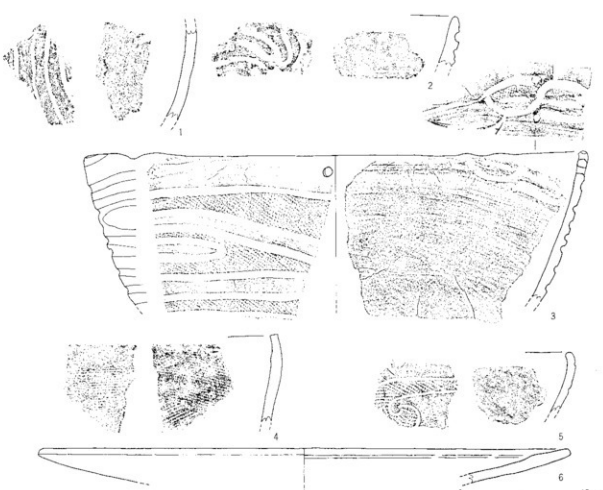
9～12は土師器で、9は前期の低脚坏、10は中期の高坏、11は後期の盤、12は壺の口縁部であるが、時期は不明である。

手捏土器（第10図、図版18）

13は手捏ねで、ミニチュアの土器である。器形は壺の脚か、高坏の脚かである。

須恵器（第10図、図版18）

14は蓋坏の蓋で、口縁部が垂直に立ち上がり、天井部は丁寧に削られている。出雲1期（注3）。15は高坏の脚部で、三角形の透かしをもつ。出雲5期。



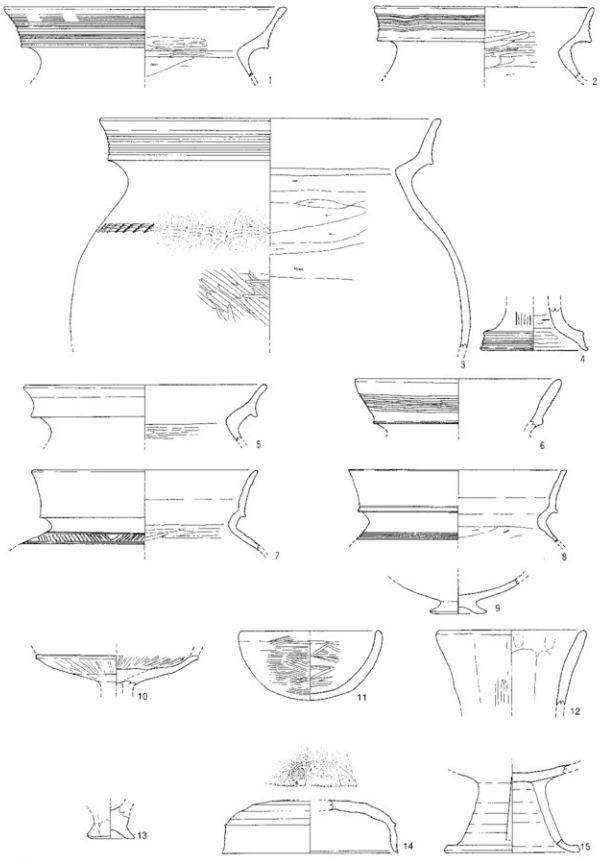
第8図　家ノ脇Ⅱ遺跡1区・4区出土縄文土器（深鉢・浅鉢）実測図（1／3）

土師器と須恵器は水田の下層から細片となって出土しており、東側の水田付近から流入したものと考えられる。

石器（第11図、図版41）

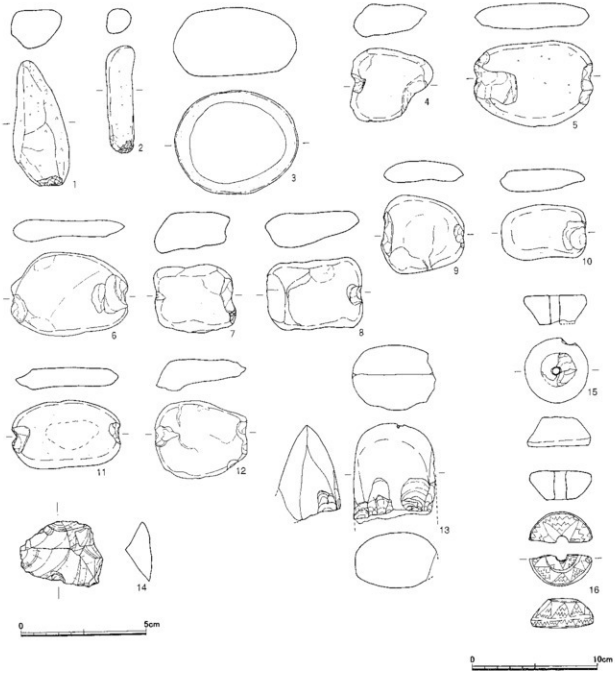
土器とともに疎らに出土している。図化できるものには磨製石斧1、石錘2、石鏃1があり、これらは1区の北側から発見されている。1は自然の石であるが、先端に叩打痕が残る。使途不明。4、6は石錘で、両端にくり込みをもつ礫石錘である。13の磨製石斧は弥生時代の蛤刃石斧で、刃以外は欠損している。石材は安山岩で、地元産ではなく、他地域からの搬入品と考えられる（注4）。

第9図　家ノ脇Ⅱ遺跡1区・2区・3区出土縄文土器・土製耳飾実測図（1／3）



第10図　家ノ脇Ⅱ遺跡1区出土弥生土器・土師器、
4区出土土師器・手捏土器・須恵器実測図（1／3）

注1　『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書5－南講武草田遺跡－』鹿島町教育委員会 1992
注2　『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4－槙ヶ峠遺跡－』島根県教育委員会 2004
に縄文時代の赤色顔料の分析が載っている。本資料の分析結果も掲載されている。
注3　大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』11　島根考古学会　1994
以下、須恵器の時期については本論文による。
注4　中村唯史氏の鑑定による。



第11図　家ノ脇Ⅱ遺跡1区・2区（流路）、4区出土石器（槍石・磨石・石錘・磨製石斧・楔形石器・紡錘車）実測図（1／3、14は2／3）

表3　家ノ脇Ⅱ遺跡出土縄文土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
8	1	家17	4区	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：浅黄橙色	ナデ	ナデ	4条以上の凹線をもつ。円形の刺突文が2段に施されている。	
8	2	家17	4区 E-3	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：にぶい黄橙色	ナデ		凹線を口縁部に横に走らせる。	
8	3	家17	1区 A-1	包含層	縄文	深鉢	40.2	-	-	外：赤褐色 内：灰褐色	ミガキ	磨消縄文	外面にベンガラを塗る。口縁部下方に孔を1つ開ける。	
8	4	家17	4区 E-2	包含層	縄文	深鉢	-		-	全面：黄橙色	条痕文、ナデ	条痕文	口縁端部が平坦になる。	
8	5	家17	4区 E-2	包含層	縄文	浅鉢	38.0	-	-	外：褐色 内：にぶい褐色	ミガキ	磨消縄文	渦巻文の中に縄文を施す。	
8	6	家17	4区 E-2	包含層	縄文	浅鉢	42.2	-	-	全面：褐色	ミガキ	ミガキ		
9	1	家17	4区 E-3	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：明赤褐色	ナデ	縄文		
9	2	家17	1区 A-3	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：にぶい橙色	ナデ	ナデ、縄文		
9	3	家17	2区 B-14	包含層	縄文	深鉢	-		-	全面：暗赤褐色	ナデ	ナデ	口縁部内面に1条の沈線を施し、外面に低い突帯が付く。突帯に刻み目を施す。	
9	4	家17	1区 A-6	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：浅黄橙色	ナデ	扇状圧痕、ナデ	波状口縁。波状部内側に2個の孔が開く。口縁下方に凹線を2条施す。	
9	5	家17	4区 C-1	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	外：明黄褐色 内：明黄褐色	ナデ	ナデ	口縁端部に突帯をもち、突帯に刻み目を施す。	
9	6	家17	2区 B-12	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：にぶい褐色	ナデ	ケズリ	2条の押し引き文を施す。	
9	7	家17	2区	SX05	縄文	鉢	-	-	-	全面：褐灰色	ナデ	ナデ	円形竹管文を2段に施す。	
9	8	家17	2区	SX02	縄文	深鉢	16.8	-	-	外：黒褐色 内：橙色	ナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ		
9	9	家17	2区	SX01	縄文	深鉢	-	-	-	全面：にぶい黄橙色	ナデ	ケズリ	口縁部に突帯をもち、刻み目を施す。	
9	10	家17	1区 A-6	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	外：灰黄色 内：灰黄～褐色	ナデ		口縁部に突帯をもち、突帯に刻み目を施す。	
9	11	家17	1区 A-2	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	全面：明赤褐色	ヨコナデ	指頭圧痕、ヘラケズリ	口縁部に突帯文をもつ。	
9	12	家17	1区 A-1	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	外：褐灰色 内：にぶい黄橙色	条痕文	ケズリ	突帯をもつ。突帯に刻み目を施す。	
9	13	家17	1区 B-2	包含層	縄文	深鉢	-	-	-	外：にぶい橙色 内：黒褐色	ナデ	ナデ	口縁部外面下方に突帯が付き、突帯に刻み目を施す。	
9	14	家17	2区 B-12	包含層	縄文	深鉢	-	-		外：明褐灰色 内：にぶい褐色	ナデ	ナデ	口縁部下方に突帯をもつ。	
9	15	家18	2区	SX05	縄文	土製耳飾	-	0.7	2.6	上面：浅黄橙色 底面：にぶい黄橙色	丁寧なナデ	渦巻き模様	4.6 g	完形品

表4　家ノ脇Ⅱ遺跡1区出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
10	1	家18	A-6	包含層	弥生土器	甕	22.6	-	-	全面：にぶい黄橙色	ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヨコナデ	口縁部に7条の平行沈線文を施す。	煤付着
10	2	家18	A-6	包含層	弥生土器	甕	17.6	-	-	外：にぶい橙色 内：黒褐色～褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	口縁部に5条の平行沈線文を施す。	煤付着。黒斑有
10	3	家18	A-6	包含層	弥生土器	甕	26.4	-	-	全面：灰茶褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ	口縁部に6～7条の並行沈線を、肩部に3条の波状文を施す。	
10	4	家18	A-3	包含層	弥生土器	高坏 (脚部か？)	-	-	8.4	全面：橙色	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ハケ、ナデ	脚端部に4条の凹線を施す。	
10	5	家18	B-3	包含層	弥生土器	甕	19.0	-	-	全面：明赤褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ		
10	6	家18	[illegible]	包含層	弥生土器	甕	16.4	-	-	全面：橙色	ナデか	ヨコナデ	口縁部に8条の平行沈線文を施す。	
10	7	家18	A-5	包含層	弥生土器	甕	16.6		-	全面：にぶい橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ	肩部に2条の沈線を施し、その間にヘラによる斜行の沈線文を施す。	
10	8	家18	A-4	包含層	弥生土器	甕	(17.2)	-	-	全面：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	肩部に4条の平行沈線文を施す。	煤付着
10	9	家18	A-4	包含層	弥生土器	低脚坏	-	-	4.5	全面：橙色	不明	ナデか		
10	10		A-4	包含層	土師器	高坏 (坏部)	-	-	-	全面：灰褐色	ナデ	ナデ	坏部内外面とも放射状に暗文を施す。	

10	11	家18	A-3	包含層	上師器	器	11.1	5.6	-	外：黄橙色 内：赤褐色	ヨコナデ、ナデの後ヘラミガキ	ヨコナデ、ハケ目	
10	12		A-1	包含層	上師器	長頸壺(頸部)	11.4	-	-	全面：橙色	ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕	ヘラミガキ	
10	13	家18	A-1	包含層	上師器	手捏土器(ミニチュア土器)	-	-	3.8	全面：にぶい橙色	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	音か高坏の脚部
10	14		A-3	包含層	須恵器	高坏(蓋)	14.0	4.2	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	
10	15	家18	A-2	包含層	須恵器	高坏	-	-	10.8	全面：暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ、ナデ	2方透かしを施す。

表5　家ノ脇Ⅱ遺跡出土石器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	出土位置	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
11	1	家41	1区A-4	石鏃	10.1	4.4	3.1	166.5	流紋岩	
11	2	家41	2区C-12	石鏃	8.6	2.1	2.0	70.0	閃緑岩	
11	3	家41	4区E-3	掻り石	9.8	8.2	5.5	631.8	石英安山岩	
11	4	家41	1区B-6	石鏃	6.5	5.8	3.6	167.3	流紋岩（粗粒）	
11	5	家41	4区E-3	石鏃	9.5	6.7	2.3	219.3	流紋岩	
11	6	家41	1区A-4	石鏃	9.3	6.2	1.8	162.0	流紋岩	
11	7	家41	2区SX05	石鏃	6.3	5.5	2.9	172.0	流紋岩	
11	8	家41	4区E-3	石鏃	7.6	5.5	5.5	208.4	流紋岩（粗粒）	
11	9	家41	4区E-3	石鏃	6.6	6.2	1.8	115.9	流紋岩	
11	10	家41	4区E-3	石鏃	6.7	4.3	1.7	88.9	流紋岩	
11	11	家41	4区D-3	石鏃	8.6	5.4	2.2	145.0	流紋岩	
11	12	家41	4区D-3	石鏃	7.3	6.5	2.3	129.6	花崗岩	
11	13	家41	1区B-5	磨製石斧	7.6	6.5	4.8	336.9	安山岩	地元産ではない
11	14	家41	2区B-13	楔形石器	3.3	2.5	1.5	7.8	黒曜石	
11	15	家41	2区SX05	紡錘車	5.0	5.2	2.3	38.3	凝灰岩	
11	16	家41	2区SX01	紡錘車	5.0	2.4	2.3	20.2	凝灰岩	

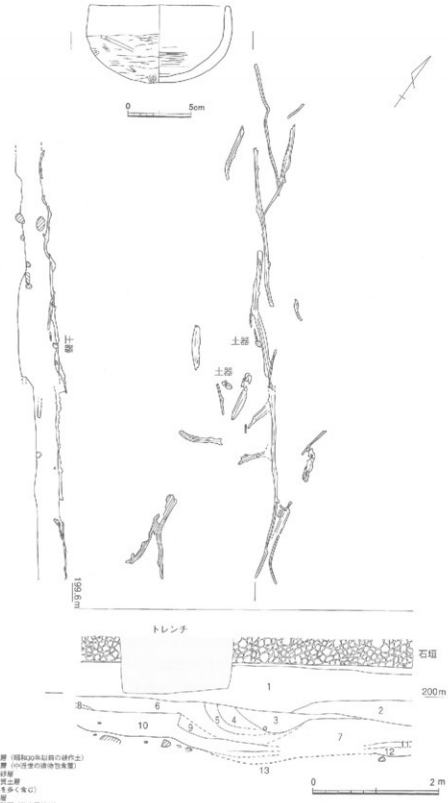
第3節 2区の遺構と遺物

1区の北側に隣接する。川沿いの2段からなる南北100mの長い水山跡に当たる。標高200mで、斐伊川との比高差は4～5mである。1区の南側は東の斜面から流れ出た土石流により、遺構・遺物は認められず、北側半分のみを対象とした。

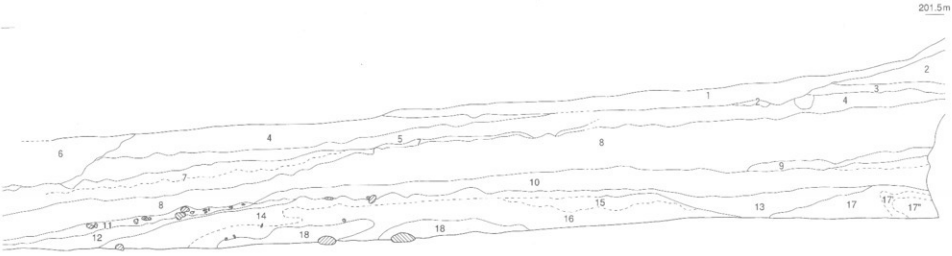
1区と同様に、この区でも縄文時代、弥生時代、古墳時代の斐伊川の河川敷を検出した。各時代1面である。最も古い縄文時代の河原は、三瓶大平山降下火山灰が混じる層より下に存在するので、今から3,600年以上前のものと考えられる。この区の遺構としては、南側で木列1列、集石・土器溜り1箇所、谷間から流れた流路跡3箇所とそれに伴う土器溜りを検出した。時代は総て古墳時代後期である。

木列

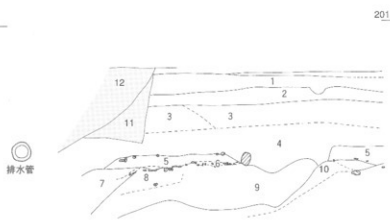
木列は2区B-11に所在し、長さは10数m確認できたが、置かれている木は脆く、図化できたのは10m程であった(第12図)。東から西に向かって低くなる。木列のレベルが当時の傾斜になると思われる。木列は数本の小さい広葉樹からなり、基本的には一列であるが、部分的には2本が重なる場所もある。断面を見ると、谷間から流れる水路に沿って置かれ、古墳時代後期の時期になると幅1m程の小さい溝状となっている。しかし、弥生時代末頃から古墳時代初めにかけての時期は2m程の幅をもち、また、木列の下50cmにある斐伊川河床の礫面が抉られており、東の谷間から出る水は当時この部分を流れていた可能性が強い。この木列の側には3個体に割れた古墳時代後期



第12図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区南側（A－11～C－11付近）
木列出土土師器（盌）実測図（１／３）



２区東側セクション
1 表土
2 褐灰色土層（サビを含む）
3 淡茶灰色土層（水田の鉄分沈殿）
4 にぶい茶褐色土層（少量の礫を含む）
5 暗灰茶色土層（少量の礫を含む）
6 灰色土層（撹乱土）
7 黒灰色土層（縄線の上層は炭化物を多く含む）
8 灰茶色砂層
9 赤褐色砂層
10 淡灰色砂層
11 灰茶色砂層（川石を多量に含む）
12 茶褐色砂層
13 暗灰色砂層
14 赤褐色砂層
15 淡灰色砂層（黒色砂を含む→鉄網架一）
16 淡黄色砂層（粒子が粗い）
17 淡黄色砂層（粒子が16よりやや細かい）
17' 黒色砂層（鉄褐鉱）
17" 淡赤褐色砂層
18 13と同じ



1 暗褐色土層
2 茶褐色土層
3 暗褐色土層
4 茶褐色土層
5 黄褐色細砂層
6 白色火山灰層
7 灰褐色細砂層
8 黄褐色粗砂層
9 青褐色細砂層
10 赤褐色粗砂層（黒色砂混じり。マンガン含む縄文時代の河床）
11 埋土
12 埋土

の土師器盤（第12図）が1個出土している。なお、木列の付近からは他に遺物はなく、時期を知る唯一の土器である。

集石・土器溜り（SX01）

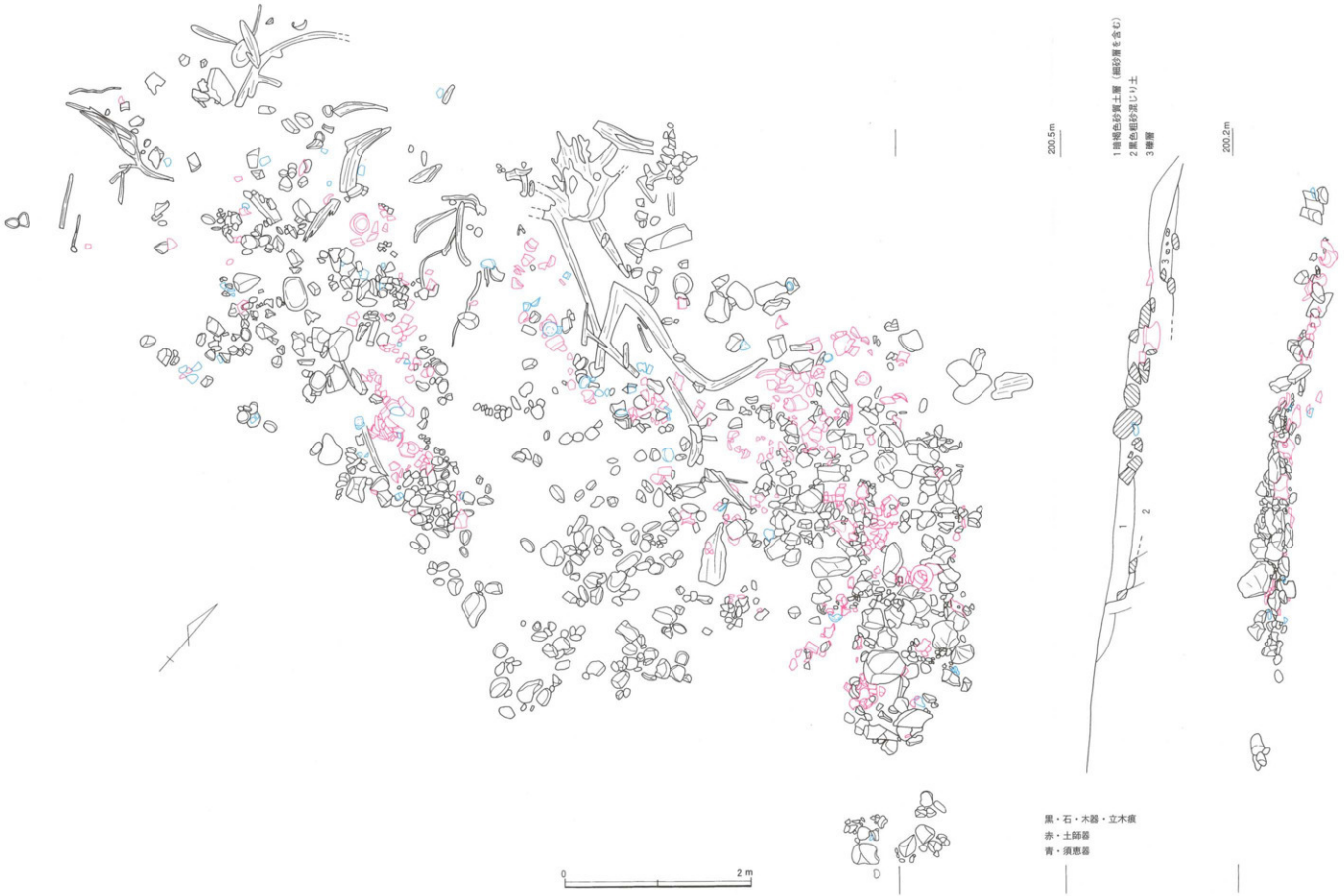
2区北側のB-12、B-13に位置し、古墳時代後期における斐伊川の河川敷きの一角にあたる。標高は199mから200mで、1mの間にあり、集石と現在の斐伊川との比高差は4m程になる。また、東側の3区の土器溜りと集石遺構の標高は202mで、2区の集石との比高差は2m程である。よって、SX01は標高を比べる限り、川底と3区の遺構の高さの中程にあたる。3区の土器溜りと集石遺構は、黒褐色土層上面に存在するので、2区のような河川敷きに位置するのではなく、河岸段丘上の草叢の一角にあったと考えられる。なお、当時の2区と3区の風景を今の斐伊川沿いで探すとすると、家ノ脇Ⅱ遺跡の下流50mにある林原遺跡付近の左岸の様子が近いかもしれない。（写真1）

集石・土器溜り（SX01、第14図、図版6～13）

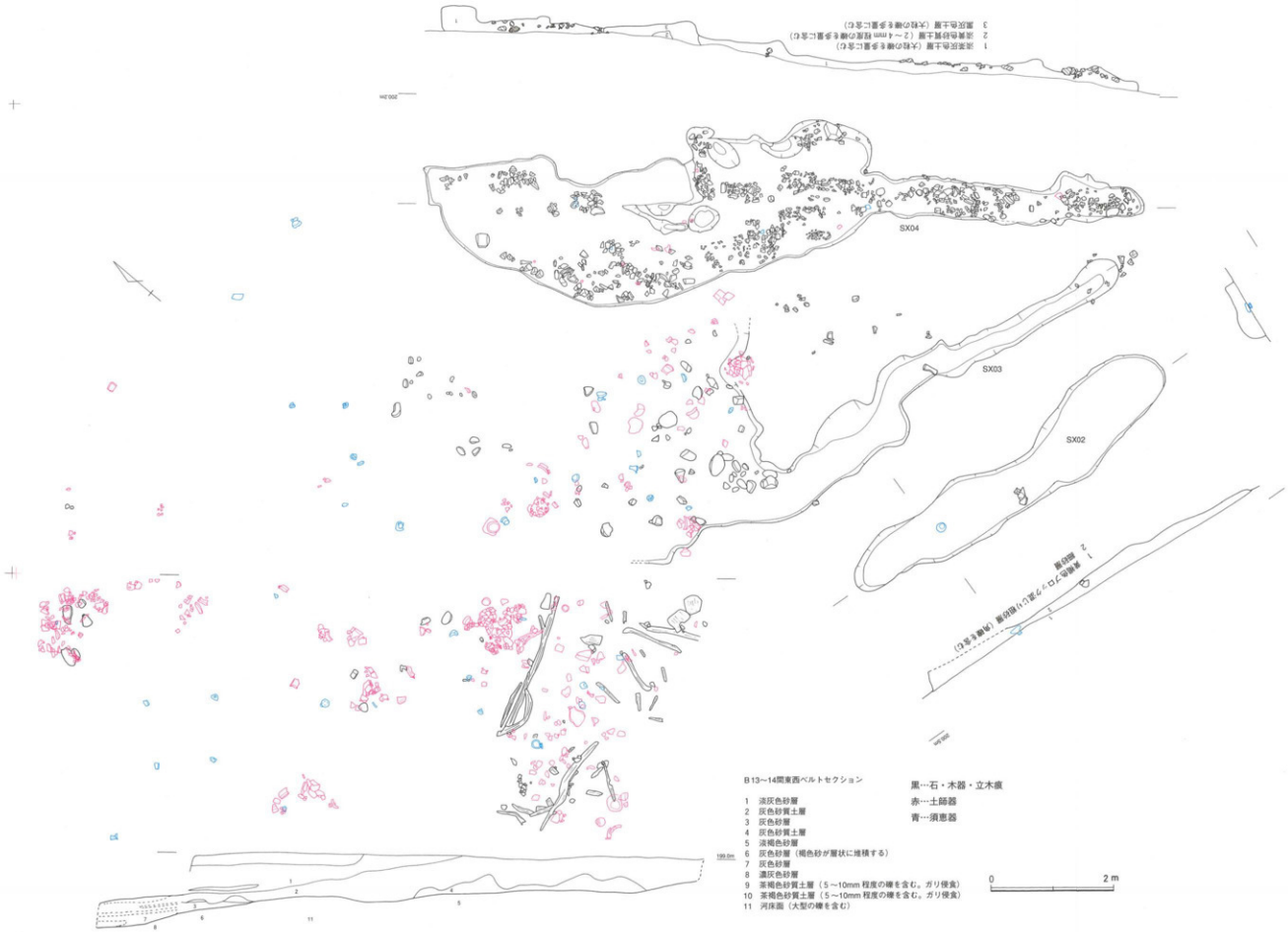
東西5m×南北10mの範囲に、河原石と山石を高さ1mに積み、その中や周囲に須恵器や土師器などを置く。調査を行った時には、ほとんどの土器は破片となっていたが、中には壊れることなく、完全な形のものが数個存在した。また、集石の斐伊川側には木の株が3本現存していた。さらに、それから伸びる太い根も集石の中へ広がっている。木の株の高さは散乱する土器の堆積の面とほぼ同じであり、根の入り具合より土器が置かれた後、あまり時間が経ない時期には立木になっていたと考えられる。なお、北側の木（No.1）は幹の径が30㎝程で、落葉樹のコナラである。中の木（No.2）は幹の径が10㎝程で、常緑樹のスタジイ（椎）であり、これらは川沿いに生えていたことが知られる。今日でも、調査区付近には同じように川側にはネムやクルミなどの立木が生い茂っている。なお、株の樹種鑑定は文化財調査コンサルタント株式会社の分析による。

集石の基盤は斐伊川の礫が堆積する河床であり、河床の斜面の窪みに須恵器壺や提瓶、土師器甑などが石とともに最初に置かれていた。（図版9中段、下段）その後、拳大から人頭大の川原石や山石が積まれ集石となり、同時に、土師器、須恵器も置かれ、土器溜り（第14図）が形成される。土器の分布については、須恵器、土師器や器種等に差はなく、一応に出土している。集石では、一番高い所は比高が40㎝程あり、山状に高くなっている。土層をみると土器や石の間には黒色層が、さらに、黒色層中には部分的に、砂層が薄く堆積しているところもある。石の中で最も大きいもの

写真1　林原遺跡付近を流れる斐伊川（北から）
（谷の奥部に家ノ脇Ⅱ遺跡が存在する）



第14図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）実測図（１／40）



第15図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区　流路跡実測図（１／60）

は集石の北側に置かれた79.3kgの山石である。この石は大きさが突出しているが、他の石はみな小さく、10kgから20kgのものは大きい石といえる。

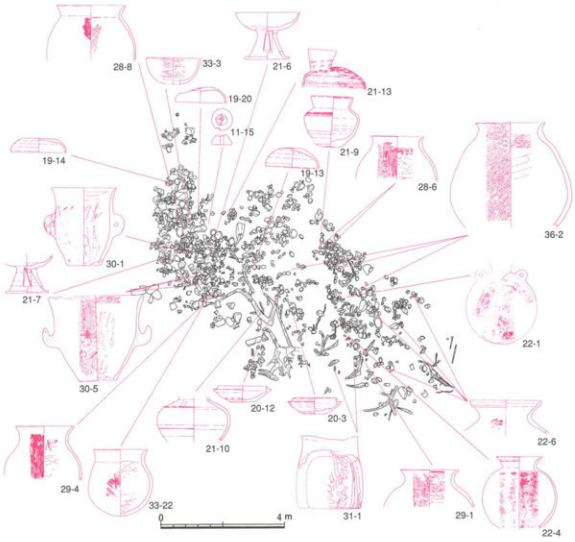
流路跡１、２、３（SX02、03、04、第15図、図版10、11、13）

家ノ脇Ⅱ遺跡の東側の谷合の裸地化した斐伊川右岸が雨水によってが浸食され、「ガリ」と呼ばれる形状の溝状の流路を生じた。そこに家ノ脇Ⅱ遺跡の東側の谷合が侵食され、発生した土石が溝の内部に堆積し、山石混じりの土層になっている。

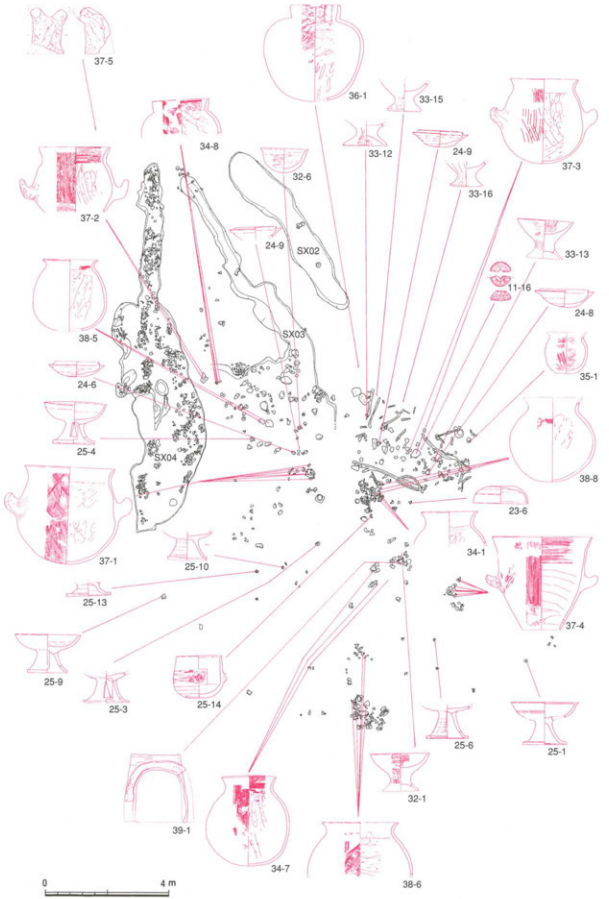
３本の流路跡は標高200.2m付近で始まり、199.2mで不明瞭になる。標高200.2mより高い場所では１本の流れであったと推定される。しかし、この１本の流路については、地山を削ってはいなく、堆積層の中を流れていたため確認できなかった。一方、先端の199m付近は水平となり、扇の先のように広がって流れたと考えられる。SX01の西側でも、ガリ浸食で流れた堆積層が認められた。（図版６上段）

流路跡１（SX02、第15図、図版７上段）

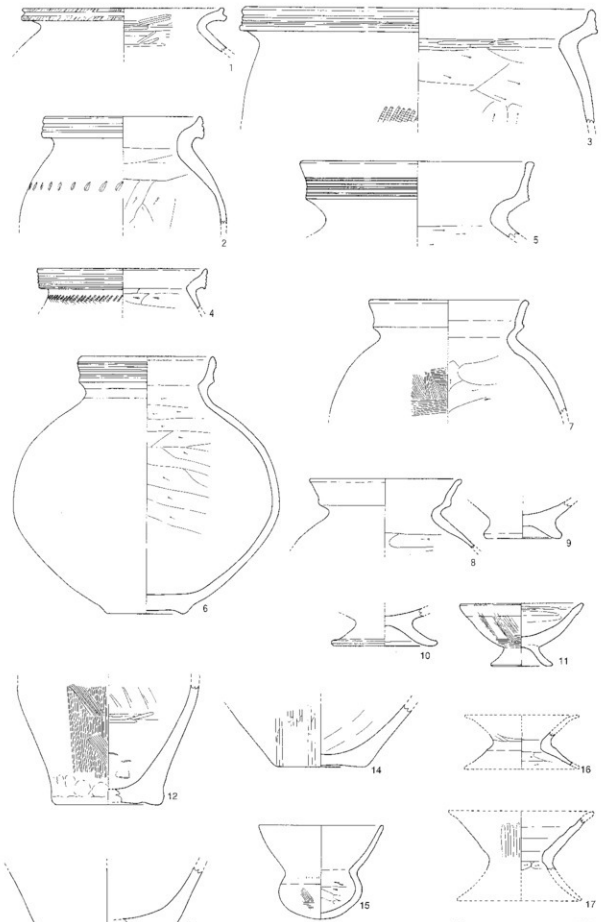
SX01の北側に隣接し、３本の流路では南側に位置する。現存長は８m、幅１mの規模で、南西



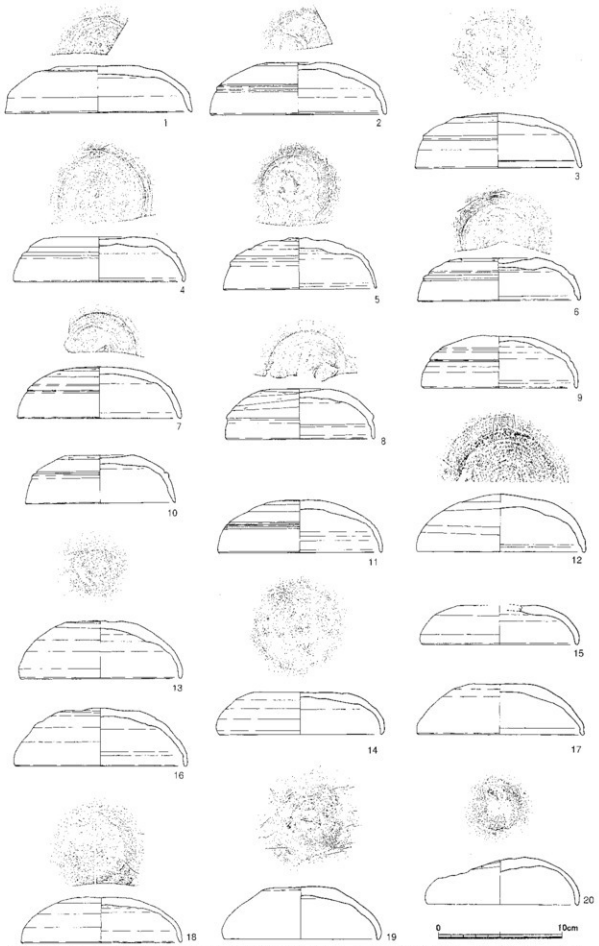
第16図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）遺物出土位置図



第17図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡遺物出土位置図



第18図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）
流路跡出土弥生土器・土師器実測図（１／３）



第19図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（蓋）実測図（１／３）

方向に流れている。深さは10cmから20cmで、内部には拳大の流紋岩と考えられる山石が多く含まれている。遺物としては、須恵器、土師器の破片が少し混じるだけである。遺構の始まりは標高200mのところで、終わりはSX01の北側にあたり、標高は199.2mとなる。その比高差は80cmで、緩やかな傾斜となっている。

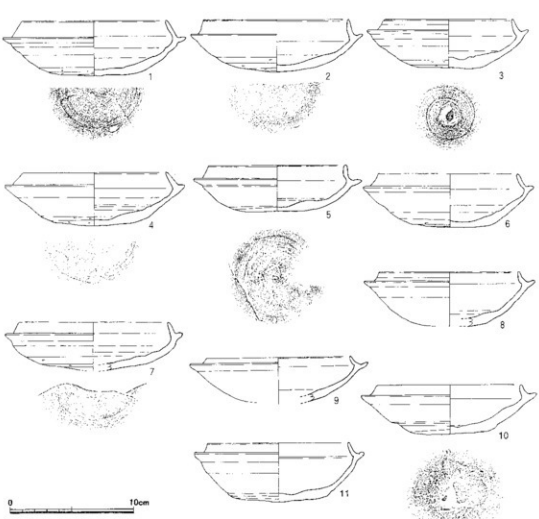
流路跡２（SX03、第15図、図版７上段）

SX01の北側に隣接する。現存長８m、幅１mの規模で、流路跡１と同じく南西に流れている。深さは４cmから10cmである。内部には拳大の山石が多く含まれ、遺物としては須恵器、土師器の破片が少し混じる。この流路の始まりは標高200mのところで、終わりはSX01の北側のあたりで、両者の比高差は１mで、流路跡１と同じく緩やかな傾斜である。

流路跡３（SX04、第15図、図版７上段）

SX03の北側に隣接し、３本の流路では北側のものである。現存長11.5 mで、南西に流れている。最大幅は２mであるが、最初の４mは狭く、幅は50cm程である。深さは15cmから30cmで、内部には、拳大の山石が多く含まれている。遺物には、須恵器、土師器の破片が少し混じる。始まりは標高200 mで、終わりはSX01とSX02の北側２mあたりで、高さは199 mとなる。比高差は前者と同じであり、緩やかに傾斜している。

２区の遺物　２区の遺物としては縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、中世土師器、

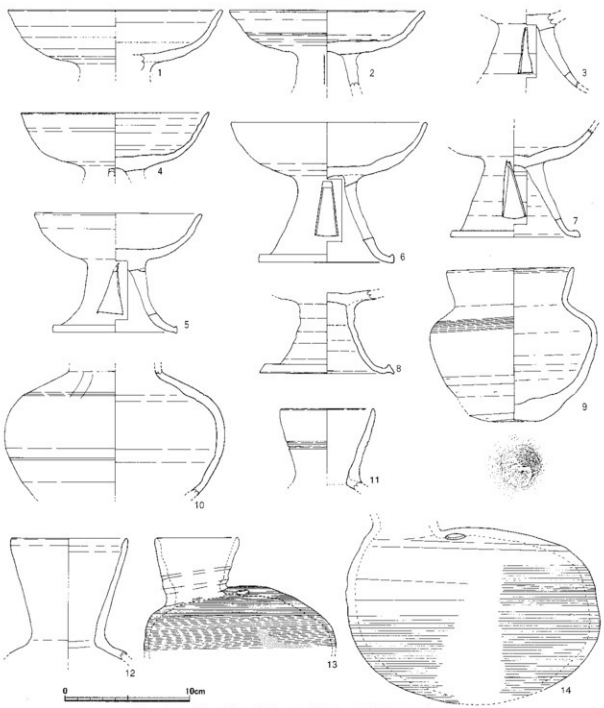


第20図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土須恵器（坏）実測図（１／３）

石器、木器がある。

縄文土器（第９図、図版17下段）

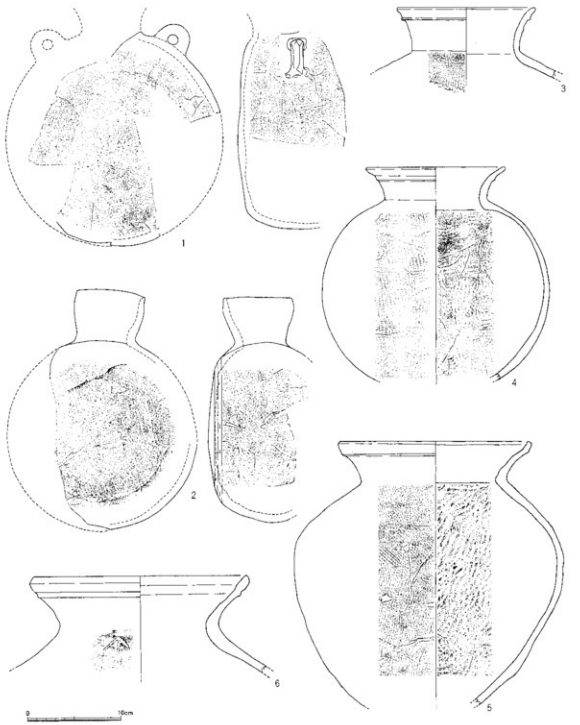
少量で、ほとんどが細片である。河川敷きの礫の上面から出土しているものが多い。摩滅が少ないので、二次的に川原に流され、砂に埋もれた土器である。第９図６以降の土器は晩期の鉢である。６～７は晩期前半、９、14は晩期の凸帯文の鉢である。15は土製耳飾りで、２区の流路西端の河原面から出土している。表面には螺旋状の文様がある。同様な耳飾りは木次町の槇ケ峠遺跡で発見されている（注１）。



第21図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）
出土須恵器（高坏・壺・平瓶）実測図（１／３）

弥生土器（第18図、図版19、20）

後期を中心とする時期が大半を占めるが、第18図12は前期、1、13、14は中期に属する。1は中期後半の甕で、口縁部は「く」の字に大きく外反し、口縁端部には刻目と1条の凹線を施してある。2～4は後期前半の甕で、複合口縁部には数条の凹線が施され、2、4の肩部には刺突文が認められる。5～8は後期後半の甕であり、5、6の複合口縁部には数条の櫛による平行沈線文が施されている。2～6の出土地点は木列の乗る上層の下層にある弥生時代の谷合から流路に沿って発

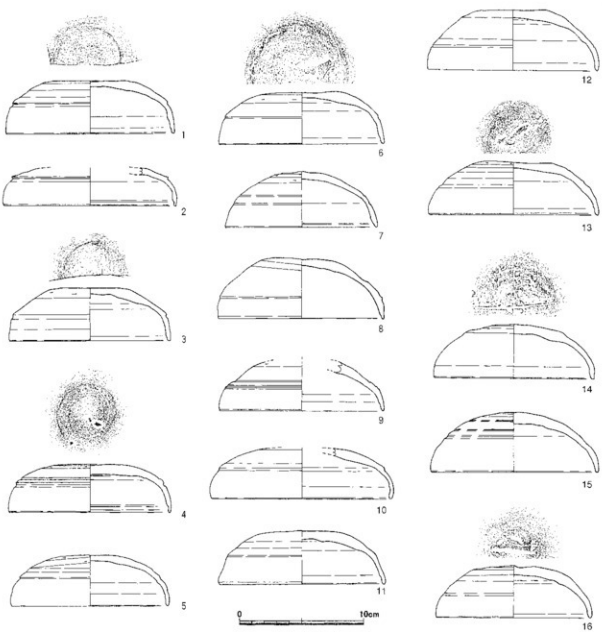


第22図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区集石・土器溜り（SX01）
流路跡出土須恵器（提瓶・甕）実測図（1／4）

見され、河床である砂礫層上面に位置する。同じ流路の土器には13がある。9は台付き壺である。10、11は低脚坏であるが、時期は不明。15～17は古墳時代初めの土師器で、15は小型丸底壺、16、17はミニチュアの器台である。10、11、14～17はSX01付近から出土している。弥生土器は調査区の南側に集中していた。

須恵器（第19～26図、図版20～28）

6世紀後半から7世紀初めと8世紀のものが出土している。器種としては、蓋坏、高坏、各種壺、甕、甑などがある。6世紀後半から7世紀初めの須恵器は土器溜りと流路跡に集中し、8世紀のものは流路の西側から発見されている。完全な形のものは蓋坏と高坏に数個しかなく、ほとんどが壊れている。ただし、接合するとかなりの土器が形が分かるほど復元でき、また、破片はまとまって出土している。土師器も同様な出方をしているので、おそらくは大部分の土器は河原に置かれ、そ



第23図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区流路跡出土須恵器（蓋）実測図（1／3）

の場で壊れた可能性が高い。

第19～21図は土器溜り、第23～27図は流路跡の須恵器である。

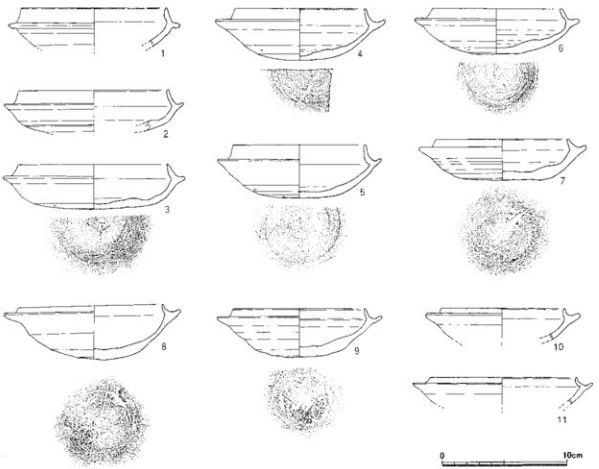
蓋坏（第19・20・23・24図、図版20～26）

第19図は蓋坏の蓋である。1は口縁部が斜めにまっすぐに立ち上がる。天井部は低く、平坦である。壺の蓋の可能性もある。2以下は蓋坏の蓋であり、2～11までは体部と天井部との境に沈線が入り、稜を作る。12以降は稜をもたなく、体部から天井部にかけては丸くなる。12の天井部には、ヘラ削りが施されるが、13～20には認められない。1～11は出雲4期、12以降は出雲5期にあたる。

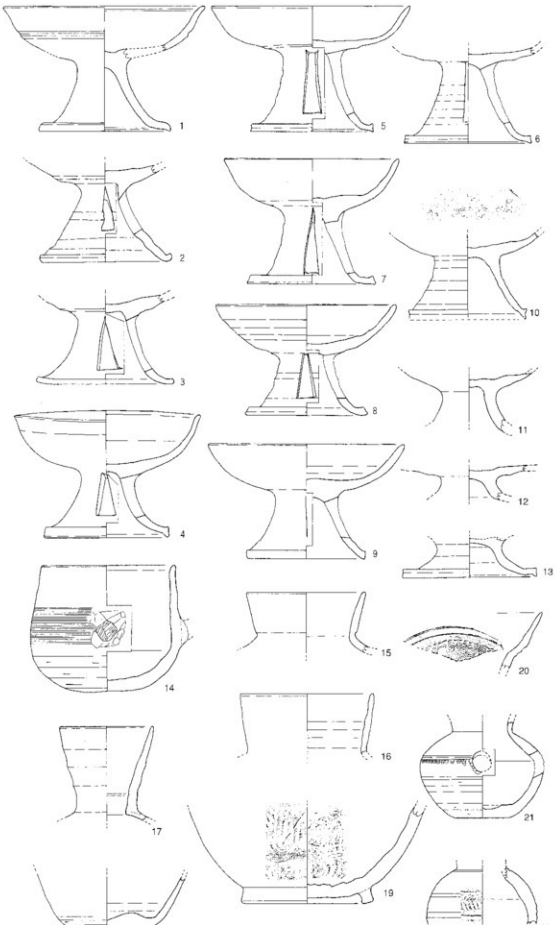
第20図は蓋坏の身である。1～6の天井部にはヘラ削りが施され、受け部の傾斜もやや起きている。7～11は、天井部にはヘラ削りがなく、受け部も短く、かつ、かなり傾いている。前者は出雲4期、後者は出雲5期にあたると推定される。

第23図は蓋坏の蓋である。体部と天井部との境に沈線が入り、稜を作るものが多い。1から8までは、天井部にはヘラ削りが施される。出雲4期に属する。しかし、12以降は削りが認められなく、外面の天井部はナデで仕上げられている。出雲5期に入るであろう。

第24図は蓋坏の身である。1～5の天井部には、ヘラ削りが施され、受け部の傾斜もやや起きている。7は、天井部には、ヘラ削りがなく、7～9は受け部も短く、かなり傾いている。前者は出雲4期、後者は出雲5期に該当する。



第24図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区流路跡出土須恵器（坏）実測図（1／3）



第25図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土須恵器（高坏・壺・甕）実測図（１／３）

高坏（第21・第25図、図版23、24、27）

第21図1～8は低脚無蓋の高坏である。坏部は浅く、口縁部は大きく開く。透かしは、8を除いて二方に穿たれ、形は三角形と直線のものがある。1、2の坏部は大きい。

第25図1～9は低脚無蓋の高坏である。坏部は浅く、口縁部は大きく開く。1は坏部の中程に稜が入る。透かしは、10を除いて二方に穿たれ、形は三角形と長方形および直線のものがある。なお、脚の端部をみると、1～3は丸くおさめているが、4以降のものは稜線が付く。11～13は脚が低く、踏ん張る。透かしをもたない。坏部は欠く。大原郡木次町下布施横穴墓群3号穴に類列があり、脚台付き塊とされている（注2）。ここでは脚部のみであり、高坏としておく。

壺（第21・25図、図版23、27）

第21図10は土器溜り出土の土器。蓋をもつ壺で、胴が張り、短い頸が付く。11、12は長頸壺の頸部。第25図は流路跡出土。15、16は広口壺、17は長頸壺の頸部である。18は広口壺の底部で、削りが入る。19は低い高台をもつ壺の底部。内外面に同心円と平行の叩き跡が残る。

平瓶（第21図、図版24）

13、14は平瓶である。胴部にはカキ目が施され、胴部の上方にはボタン状の粘土が貼り付けられている。13の胴部には黒漆が部分的に塗られている。

提瓶（第22図、図版24）

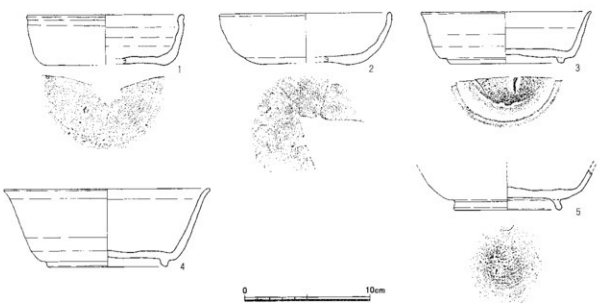
1はがっちりとした環状の把手をもつ。2は流路跡出土のもので、把手が付かなく、単純な筒状の口縁部をもつ。2個とも胴部の片方が扁平に作られ、カキ目が施されている。

甕（第25図、図版27）

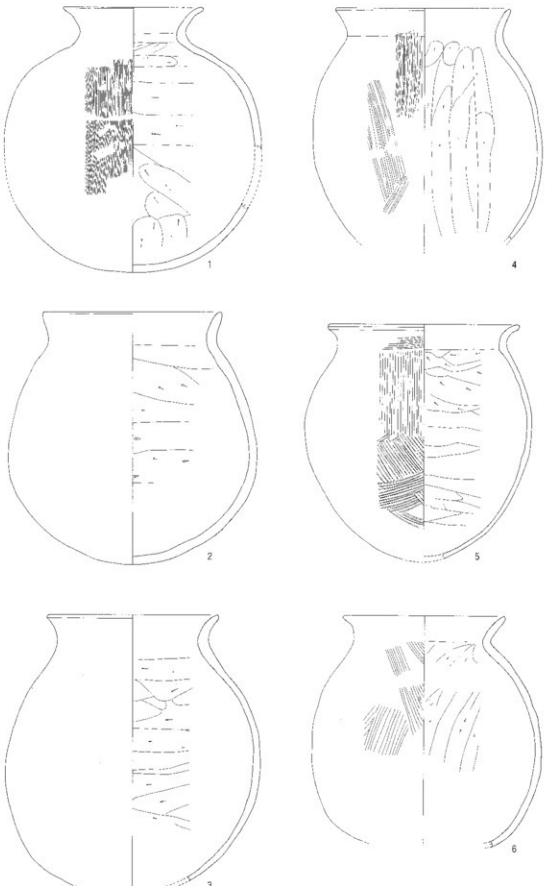
20～22は甕の破片。20は口縁部から頸部の破片で、外面に櫛状工具で波状文を入れる。21、22は体部に2条の沈線を引き、その間に刺突文を施す。

甕（第22図、図版24）

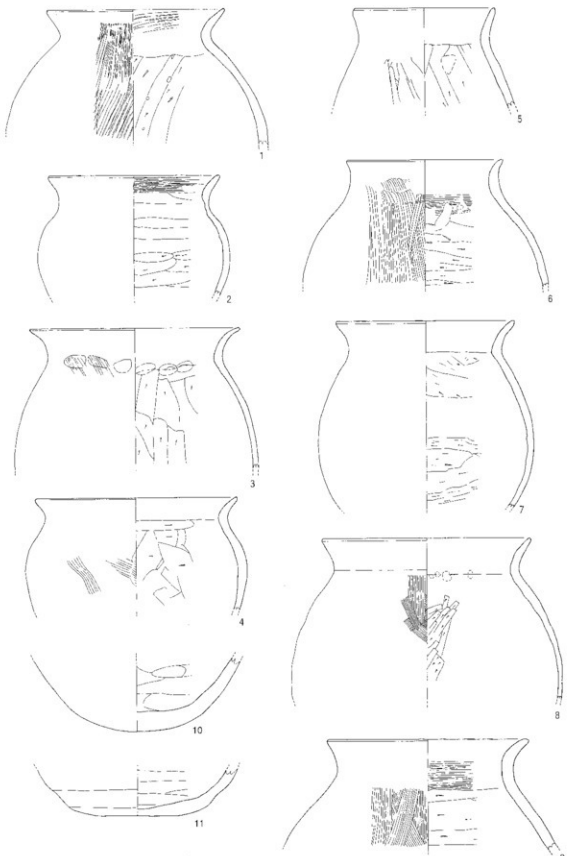
「く」の字に開く、短い口縁部をもつ。胴部の内側は同心円、外面は平行の叩きが付く。口縁部



第26図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区流路跡出土須恵器実測図（1／3）



第27図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図（１／４）



第28図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図（１／４）

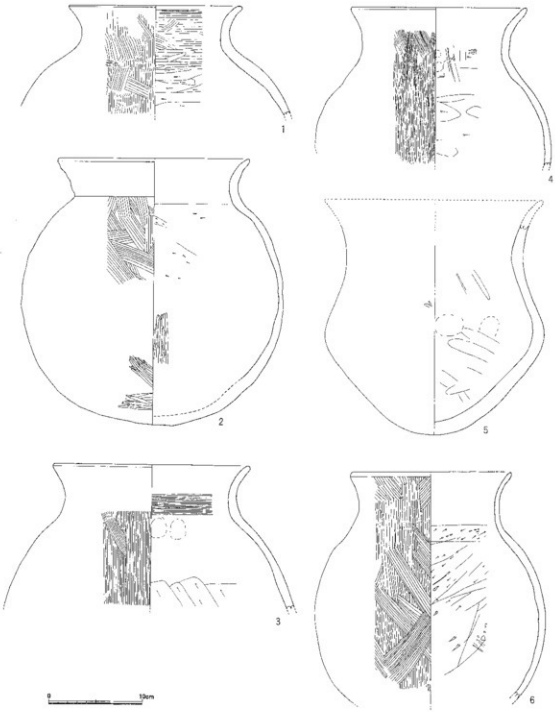
の先端は3、4は外反し、5は端部が立ち上がり、6は端部が肥厚する。

坏（第26図、図版28）

流路跡出土の坏で、総て糸切り底である。1、2は高台が無く、体部は少し内湾する。3～5は低い高台が底部外側に付く。体部は少し、外に開く。8世紀のもので、調査区の北端から発見されている。出土量は古墳時代の須恵器に比べ僅かである。

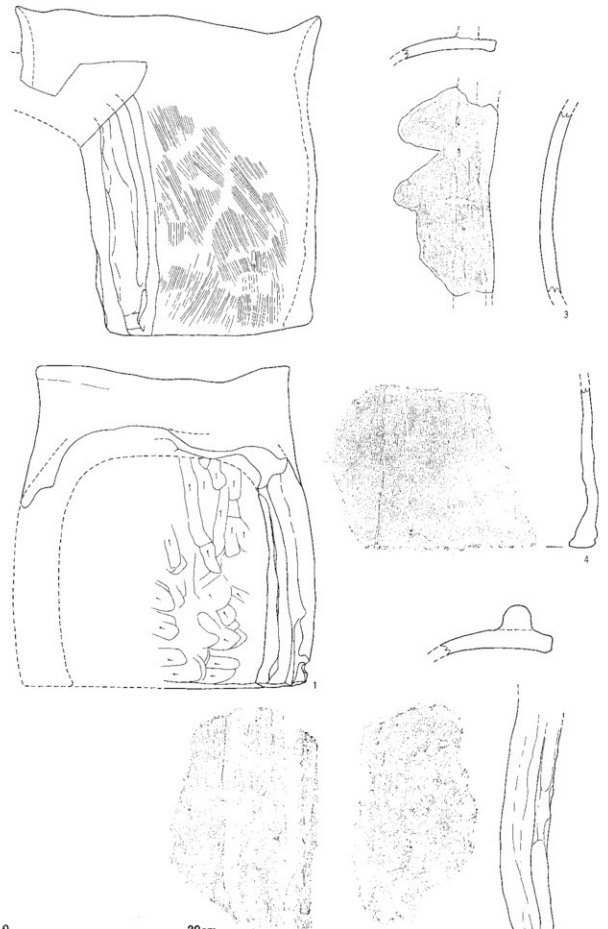
土師器

6世紀後半から7世紀初めと8世紀のものが出土している。器種としては、甕、甑、竈、高坏、



第29図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甕）実測図（1／4）

第30図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土土師器（甑）実測図（１／４）



第31図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）出土遺物実測図（１／４）

坏などがある。6世紀後半から7世紀初めの須恵器と共伴し、土器溜りと流路跡に集中している。また、須恵器と同様に8世紀のものが流路の西側から発見されている。完全な形のものは小型の甕が集石の中で1個発見されただけであり、ほとんどが壊れている。ただ、接合するとかなりの土器が形が分かるほど復元できる。また、破片はまとまって出土しており、おそらく大部分の土器は河原に置かれ、その場で割れたと推定される。

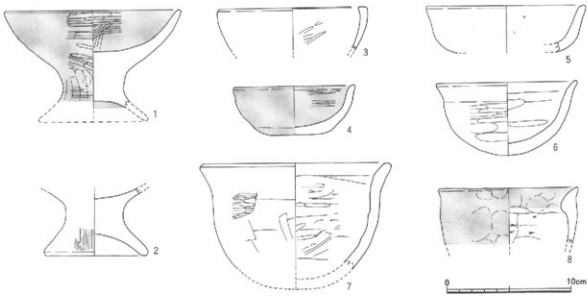
第27～31図は集石・土器溜まりの土師器である。

甕（第27～29・34～36・38図、図版29～31、36～38）

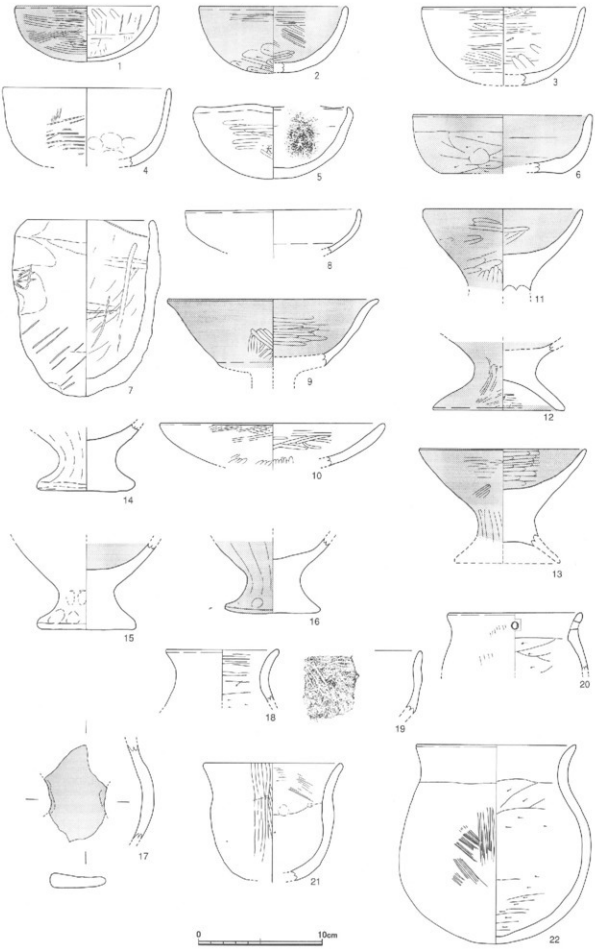
第27、28図の甕は、口縁部が緩くカーブし、「く」の字に外反する。胴部から底部は球形となる。調整では、口縁部は横ナデ、胴部の外面は刷毛目、内部はヘラ削りとなっている。多くの土器の表面には煤が認められ、実際に使用された器と考えられる。第29図の整は形態をみると、胴部が尖る5以外は口縁部が外反し、球形となる。但し、内部の調整に違いが認められる。1は肩部内面に、2は胴部から底部にかけて磨きが施されている。また、3～6は、口縁部と肩部の境にある指頭圧痕やナデの痕がヘラ削りされないまま残っている。第34図は、1～7までは口縁部がやや外反するもので、SX01出土の甕と同じ形態である。

8は、口縁部が直立気味に立ちあがる。第35図1～3は小型の甕。基本的に内外面をミガキで仕上げる。1、2は赤色塗彩。3は底部で、やや平底気味。4～5は、外反する口縁部をもち、外部にミガキを施す。第36図は基本的に内外面をミガキで仕上げ、さらに赤色塗彩している。後期の土師器甕で、ミガキで仕上げ、赤色塗彩された類例は管見の限りではない。なお、内外面ミガキを施した甕は上布施横穴墓群から出土している（注3）。近距離の遺跡であり、地元で作ったものであろう。

流路跡出土の甕も前述のSX01のものと同じ形態である。図化したものは、口縁部が外反し、肩部はなで肩になるものが多い。ただ、3は肩部は張らず、体部はまっすぐに下がる。底部の形が知れる土器は少ないが、7は丸底で、3と5は平坦気味となる。なお、1の肩部外面には波状文が施され、8の外面には赤色塗彩が認められる。



第32図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区流路跡出土土師器（高坏・坏・盌・甕）実測図（1／3）



第33図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器実測図（１／３）

把手付甕（第37図、図版37）

前記の甕の形態と同じであるが、胴部に把手をもつ。把手は甑と同様に、瘤状のものと上方に曲がるものとがある。調整も前述の甕と同じである。類例としては、飯石郡頓原町森遺跡のSI10、SI15（注4）にある。

甑（第30・33・37図、図版31・32・35・37）

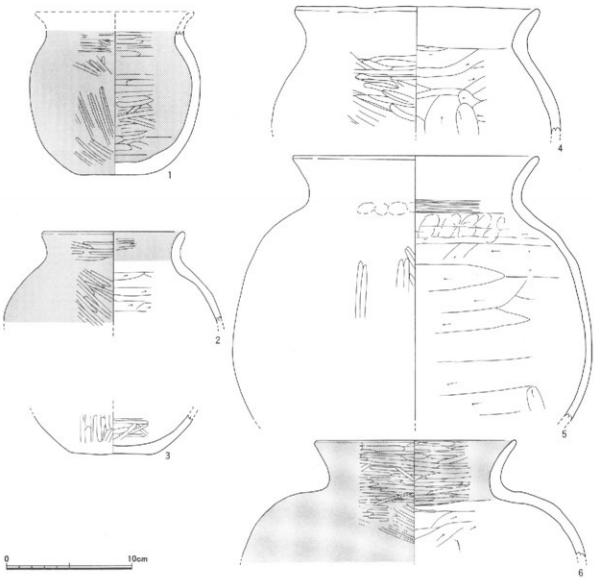
多くの体部の破片と把手が出土している。把手は82個存在するが、把手付甕のものも混じって

第34図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器（甕）実測図（1／4）

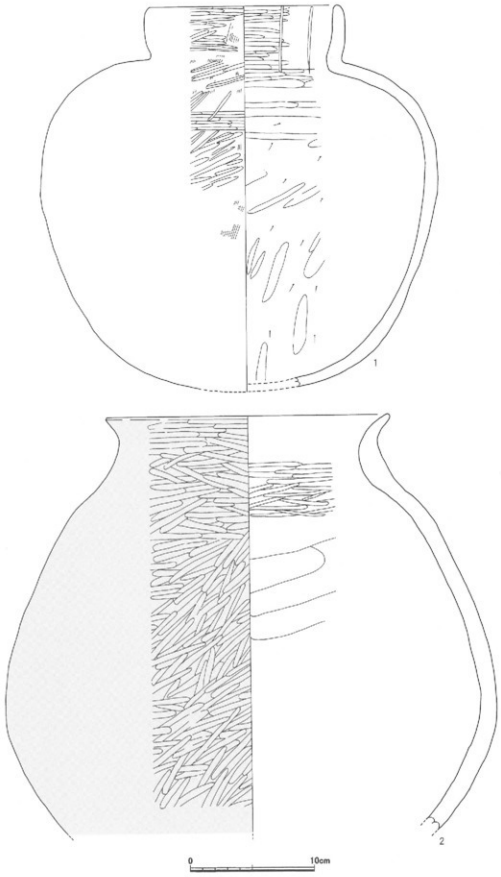
おり、個体数を確定することはできない。口縁部は少し外反するが、第30図4のように大きくカーブするものもある。胴部から底部にかけては漏斗形にすぼまる。底部には孔を2個穿つものが多いが、第30図3は孔をもたない。また、4のように途中まで孔を穿ったものも存在する。第33図17は甑の底部の簀の子支えの可能性がある。表面は暗赤色に塗彩されている。把手は瘤状のものがほとんどであるが、第30図1は環状の把手が付く。類例としては、頓原町森遺跡のSI13にある（注5）。瘤状の把手は上に曲がるものと、第30図4や第37図4のように外に伸び、先端が少し上を向くものとがある。この2種類の形態は把手付き甕も同じである。調整については、口縁部はナデ、胴部の外面は刷毛目、内部はヘラ削りとなっている。表面には煤が付くものもある。

甕（第31・39図、図版32）

集石遺構付近では6個体以上、流路跡では4個体以上の破片があるが、形が分かる程に復元ができたのは第31図1と第39図の2個体である。共に、粘土帯を積み上げて形成し、軒庇が付くものである。口縁部は甑のように少し外反し、体部は少し丸くなる。調整は、口縁部は横ナデであり、

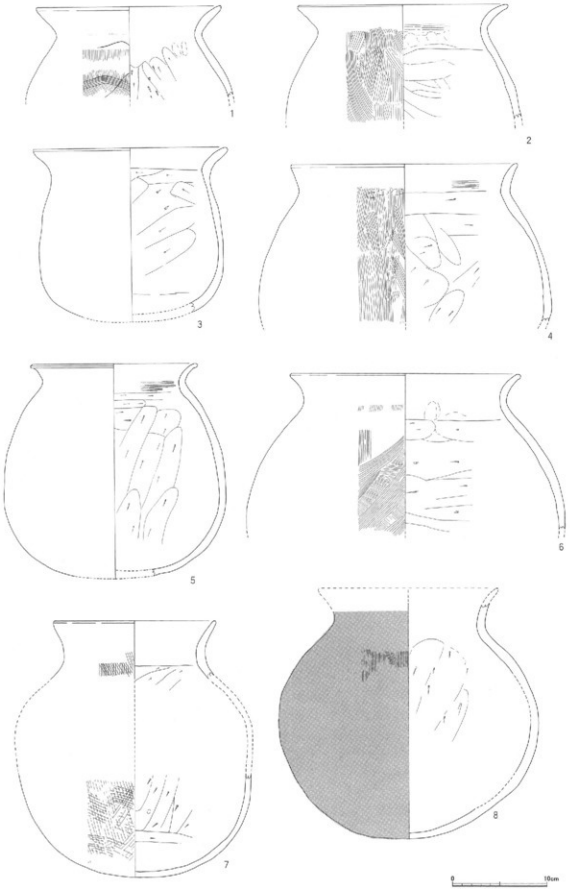


第35図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区集石・土器溜り（SX01）
流路跡出土土師器（壺・甕）実測図（1／3）



第36図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り SX01出土土師器（甕）実測図（１／３）

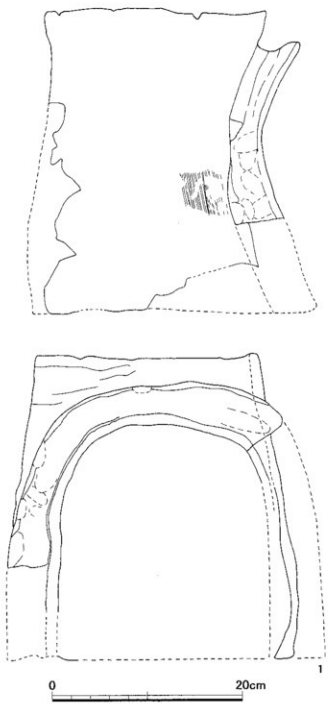
第37図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区集石・土器溜り（SX01）流路跡出土土師器（甕・甑）・土製支脚（C-14）実測図（１／４）



第38図　家ノ脇Ⅱ遺跡２区流路跡出土土師器（甕）実測図（１／４）

体部の外面は刷毛、内面はヘラ削りとなっている。

今のところ、奈良時代の仁多郡内で移動式竈の出土例は、下流域の木次町では同時期の垣ノ内遺跡（注6）や少し新しい時期の家の上遺跡（注7）が挙げられる。一方、上流域での竈の出土は少なく、仁多町内においては暮地遺跡と大字八代の奥山田遺跡のみである（注8）。中国山地の住居跡では取り付け竈が存在しており、遺跡がある仁多町の大字佐白、三沢辺りに移動式竈の境界が想定されるかもしれない。



第39図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区流路跡出土竈実測図（1／4）

高坏（第32・33図、図版33～35）

個体数は少なく、坏、脚ともに形が分かるものはない。第32図1と第33図13は残りが良く、大きく開く坏に、低い脚が付く。表面には、第32図1が淡赤橙色、第33図13がにぶい橙色の化粧土を塗る。調整では内外面ともヘラ磨きである。第32図2は前記の高坏と同じ形態と推定されるが、表面の塗彩も、ミガキも無い。第33図9は坏部外面に稜をもつもので、中期に属する。

第33図14～16は、脚が柱状になる。この地域において類例は知られていない。3個とも同じ形態で、坏部を欠く。全体に表面は丁寧なナデで仕上げられている。15と16には、にぶい橙色の化粧土を坏部の内面や坏部と脚部の外面に塗る。特殊な用途に使用されたものかもしれない。

盌・坏（第32・33図、図版33・34）

口縁部が直立するものと、やや外開きになるものとがある。底部は、丸底が多いが、第33図6は坏で、平底である。赤色塗彩されたもの（第32図4、33図1・2・6）もある。

第32図6は盌で、口縁部が少し外反し、底部は丸くなる。調整では内外面ともヘラ磨きである。同じものは、日の出林古墳から出土している（注9）。

小型甕（第32・33図、図版33・35）

第32図7・8は口縁部は短く、胴部との境は肥厚している。調整では内外面ともヘラ磨きである。第32図8は、口縁部内外面と胴部の外面には指頭圧痕が残り、赤

色塗彩されている。第33図20の口縁部には孔が開いている。この時期の甕には、孔をもつ類例は少ない。第32図8はミニチュア土器と考えられる。

土製支脚（第37図、図版37）

土製支脚は少なく、3個体しかない。接合・復元できたのは第37図5で、上部に2個の突起をもつ。底部は上げ底状になり、裏側下方に、孔が穿たれている。

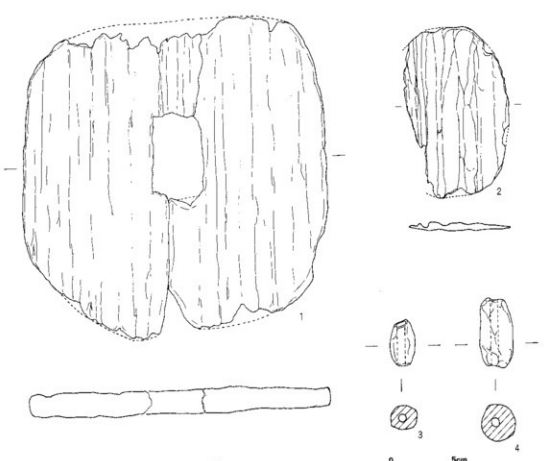
土錘（第40図、図版37）

B-14、C-14からそれぞれ1個土錘が出土している。3は砲弾状で、重さ10.3g。4は管状で、表面には指頭圧痕が残る。重さ36g。時期は不明である。

陶磁器・中世土器（第41図、カラー図版1）

2区から多く発見されている。小さい破片で、293片以上ある（家ノ脇Ⅱ遺跡出土陶磁器一覧）。これらは水田下の客土や中世以降の堆積土層中から出土している。総て、遺構には伴わない中世の陶磁器や須恵器・土師器で133片以上ある。中国陶磁器は26片。白磁は5片で、太宰府の白磁碗Ⅳ、Ⅴ類と皿（E1）がある（注10）。前者は11～12世紀のもので、後者は15世紀である。青磁は、同安窯の碗・皿各1片、龍泉窯D・E類の碗が6片、盤3片あり、鎌倉時代のものが僅かで、15世紀が多い（注11）。4は盤で、形造りの大型品である。

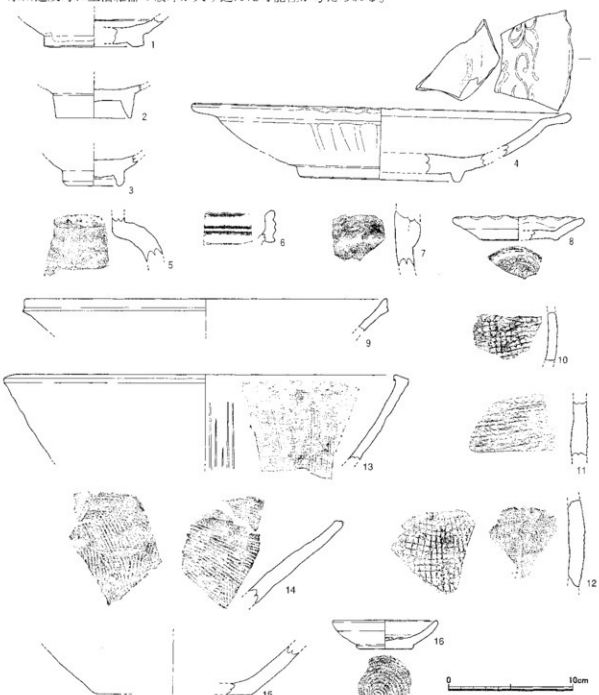
国産品は96片で、8割近い。中でも、土師器皿・坏と土師質のものが半分近くを占める。次い



第40図　家ノ脇Ⅱ遺跡2区出土木製品・土錘実測図（木製品1／6・土錘1／3）

で多いのが、備前で、壺・甕の破片が37片ある。擂鉢は備前5片、土師質5片と同数ある。瀬戸は8の鉄釉皿のみが出土している。須恵器は10片ある(第9章5節の胎土分析参照)。鉢が1片で、他は甕である。9は鉢、10～12は須恵器の胴部に格子状のタタキをもつ甕片。家ノ脇Ⅱ遺跡の陶磁器の組成は当地方の室町時代中頃の様相を良く表している。

近世陶磁器は160片以上発見されている。陶器、磁器とも各80片程ある。陶器は17世紀前半の唐津から19世紀の山陰地方の焼物までがあり、磁器も17世紀中頃から19世紀前半までの肥前系のものまで出土している。近世以降には、3区から家ノ脇Ⅰ遺跡の東側の山裾には民家が数軒あり、水田造成時に生活雑器の破片が入り込んだ可能性が考えられる。



第41図　家ノ脇Ⅱ遺跡1・2区出土陶磁器・土器実測図（1／3）

石器類（第11図、図版41）

石器類には石錘１個（７）と黒曜石の剥片（14）および紡錘車（15、16、図版41）がある。紡錘車は集石・土器溜り（SX01）と流路跡からの各１個出土している。共に、灰白色の凝灰岩製で、16には底部と側面に鋸歯文が彫られている。15はほぼ完形で、重さは40ｇある。

木製品（第40図、図版12）

木製品の出土は少ない。図化した２個は集石・土器溜り（SX01）から出たものであるが、流れてきた可能性もある。第40図１は縦49cm、横48cmの隅丸方形で、厚さ４cmの板状のもの。中央部が縦12cm、横８cmの方形の穴が開けられている。発見時には既に２個に割れ、少し離れて出土した。使途不明。２は縦27cmであるが、横幅は一方が失われており、不明。厚さは１cm程のもの。木製品の可能性もある。表面はかなり風化している。

注１、『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書４－横ヶ峠遺跡－』島根県教育委員会 2004

注２、『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書４－下布施横穴墓群・寒久寺遺跡－』木次町教育委員会 2002

注３、中濱久喜「仁多地域の古墳文化と『出雲国風土記』」『風土記論叢』１　出雲国風土記研究会 1982

注４、『志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書』２、島根県教育委員会　1994

注５、注２に同じ。

注６、『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２－家の後遺跡・垣ノ内遺跡－』島根県教育委員会 2003

注７、『尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書－家の上遺跡・石畝遺跡－』木次町教育委員会 1998

注８、杉原清一氏の教示による。

注９、注３に同じ。

注10、『太宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会 2000

注11、上田秀雄「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』２　1982

表6家ノ脇Ⅱ遺跡2区・4区出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
12	1	家19	B-11	木列付近	土師器	盤	11.1	5.9	-	外：赤褐色 内：にぶい橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ		ほぼ完形品
18	1	家19	B-13	SX01	弥生土器	甕	16.0	-	-	全面：にぶい黄橙色	丁寧なヨコナデ、ミガキ	丁寧なヨコナデ	口縁部に1条の凹線があり，刻み目文を上下に施す。	黒斑有
18	2	家19	B-12	包含層	弥生土器	甕	13.0	-	-	外：淡橙褐色 内：淡灰色	ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	ナデ	口縁部に2条の凹線文を、肩部に刺突文を施す。	煤付着
18	3	家19	A-11	包含層	弥生土器	甕	27.6	-	-	外：にぶい褐色 内：にぶい橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ナデ	口縁部に3条の凹線文を施し、肩部下方に櫛状工具による刺突文を施す。	煤付着
18	4	家19	A-12	包含層	弥生土器	甕	13.4	-	-	全面：にぶい橙色	ナデ、ヘラケズリ		口縁部に4条の沈線を施し、肩部に櫛状工具による刺突文を施す。	煤付着
18	5	家19	B-12	包含層	土師器	甕	18.4	-	-	全面：黄褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ	口縁部に7条の沈線を施す。	煤付着
18	6	家19	A-12	包含層	土師器	壺	10.6	20.4	6.2	外：淡橙色 内：橙色	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ナデ	口縁部に7条の沈線を施す。	煤付着
18	7	家19	B-14	包含層	土師器	甕	12.6	-	-	全面：灰黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
18	8	家19	B-14	包含層	弥生土器	甕	11.8	-	-	全面：浅黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ		
18	9	家19	C-13	SX01	弥生土器	壺(高台付)	-	-	-	外：橙色 内：にぶい黄橙色	ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ		
18	10	家19	B-12	SX01	弥生土器	低脚坏(脚部)	-	-	8.5	外：にぶい黄橙色 内：浅黄橙色	丁寧なナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ		
18	11	家20	B-13	SX01	弥生土器	低脚坏	9.6	4.6	-	全面：暗褐色	ヨコナデ、ミガキ	ハケ目、ヨコナデ		
18	12	家20	B-13	SX01	弥生土器	壺(底部)	-	-	9.0	外：浅黄橙色 内：灰白色	ナデ、ヘラミガキ	ハケ目、ナデ、指頭圧痕	上底状	
18	13	家20	A-12	包含層	弥生土器	甕(底部)	-	-	10.1	全面：灰黄褐色	ナデ	ハケ、ナデ	平底	
18	14	家20	B-13	SX01	弥生土器	(底部)	-	-	7.1	全面：黄灰色	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	平底	
18	15	家20	B-14	SX05	土師器	小形丸底壺	9.8	7.5	-	全面：にぶい黄橙色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目		
18	16	家19	B-12	SX01	土師器	器台	-	-	-	全面：橙色	ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
18	17	家19	B-12	SX01	土師器	器台	-	-	-	全面：浅黄橙色	ナデ、ヘラケズリ	ヘラミガキ		
19	1		B-12	SX01	須恵器	坏蓋	15.0	3.8	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ		
19	2	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	14.0	4.1	-	全面：淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	3	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.0	4.4	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	4	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.6	3.6	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	5	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	12.2	4.0	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	6	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.0	3.4	-	外：青灰色 内：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	7	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.0	4.1	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	8	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	11.8	4.0	-	全面：やや暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	9	家21	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	12.3	4.1	-	外：暗青灰色 内：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	自然釉	完形品
19	10	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	12.0	3.8	-	外：淡灰色 内：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
19	11	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.0	4.2	-	外：淡青灰色 内：やや暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ		
19	12	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	13.4	4.6	-	全面：暗青色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリが荒い		
19	13	家21	B-12	SX01	須恵器	坏蓋	12.8	4.6	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ		
19	14	家21	B-13	SX01	須恵器	坏身	13.6	3.3	-	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
19	15	家21	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	12.4	-	-	外：灰褐色 内：淡灰褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
19	16	家21	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	13.6	-	-	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ		

19	17	家21	B-13	SX01	須恵器	坏身	13.2	4.0	-	外：淡青灰色 内：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、 ナデ		
19	18	家22	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	12.8	3.6	-	外：やや暗灰青色 内：淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	蓋上部に1条の凹線あり。	
19	19	家22	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	12.5	4.1	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ起こし痕		完形品
19	20	家22	B-13	SX01	須恵器	坏蓋	12.0	3.8	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ起こし痕		完形品
20	1	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	11.6	4.4	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
20	2	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	11.6	4.2	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
20	3	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	10.4	3.8	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		ほぼ完形品
20	4	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	11.6	4.2	-	外：淡青灰色 内：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
20	5	家22	B-13	SX01	須恵器	坏身	11.0	3.7	-	外：青灰色 内：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
20	6	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	11.3	4.2	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
20	7		B-12	SX01	須恵器	坏身	12.0	-	-	外：淡黄灰色 内：淡橙灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	外面天井に1条の沈線あり。	
20	8		B-13	SX01	須恵器	坏身	13.8	4.3	-	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
20	9	家22	B-12	SX01	須恵器	坏身	11.4	4.7	-	外：淡青灰色 内：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
20	10		B-12	SX01	須恵器	坏身	11.6	3.9	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ起こし、ナデ		
20	11	家22	B-13	SX01	須恵器	坏身	14.4	-	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
21	1		B-13	SX01	須恵器	高坏 (坏部)	17.0	-	-	外：茶褐色 内：淡橙褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	透かし二方	
21	2		B-12	SX01	須恵器	高坏 (坏部)	17.6	-	-	外：暗赤灰色 内：灰黄色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	沈線1条。透かし二方	
21	3	家23	B-12	SX01	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	三角形の透かし二方	
21	4		B-13	SX01	須恵器	高坏 (坏部)	15.1	-	-	外：暗青灰色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	透かし二方	
21	5	家23	B-13	SX01	須恵器	高坏	14.0	9.5	10.0	全面：灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	三角形の透かし二方	
21	6	家23	B-13	SX01	須恵器	高坏	15.6	11.1	11.0	全面：青褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	透かし二方（方形と切り込み）	
21	7	家23	B-13	SX01	須恵器	高坏	-	-	10.3	全面：淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ	三角形の透かし二方	
21	8		B-13	SX01	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	10.8	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	透かし二方	
21	9	家23	B-12	SX01	須恵器	短頸壺	10.6	12.1	-	外：灰褐色 内：淡灰褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	櫛状工具による平行線文	
21	10	家23	B-12	SX01	須恵器	壺 (胴部)	-	-	-	外：青灰色 内：淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、カキ目	沈線2条	自然釉
21	11	家23	B-12	SX01	須恵器	長頸壺 (頸部)	7.4	-	-	外：淡灰～灰褐色 内：灰白色	回転ナデ	回転ナデ	沈線2条	自然釉
21	12	家23	B-12	SX01	須恵器	長頸壺 (頸部)	9.2	-	-	全面：黒褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
21	13	家24	B-13	SX01	須恵器	平瓶	6.5	-	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、カキ目	小さい瘤状の耳が対で付く。	黒漆。漆継の跡か
21	14	家24	B-13	SX01	須恵器	平瓶	-	-	-	全面：暗青灰色	ナデ	ナデ、カキ目	円形の浮文が2個付く。	口縁部を欠く
22	1	家24	B-12	SX01	須恵器	提瓶	-	-	-	全面：青灰色	ナデ	カキ目	環状の把手が付く。	
22	2	家24	B-14	SX05	須恵器	提瓶	7.2	25.5	-	外：暗灰色 内：灰白～灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ、カキ目		
22	3	家24	B-12	SX01	須恵器	甕	14.8	-	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、タタキ、ナデ	回転ナデ、タタキ、ナデ		
22	4	家24	B-12	SX01	須恵器	甕	15.0	-	-	全面：灰色	回転ナデ、タタキ	回転ナデ、タタキ、カキ目		
22	5	家24	B-12	SX01	須恵器	甕	20.8	-	-	全面：青灰色	回転ナデ、タタキ	回転ナデ、タタキ		
22	6	家24	B-12	SX01	須恵器	甕	24.5	-	-	外：灰～黄橙色 内：黄橙色	回転ナデ、タタキ	回転ナデ、タタキ		＊状の窯印
23	1	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.4	4.2	-	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
23	2		B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.8	-	-	外：暗青灰色 内：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ、ナデ		

23	3	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	12.6	4.2	-	全面：やや暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
23	4	家25	B-12	包含層	須恵器	坏身	12.8	3.8	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		
23	5		C-13	SX03	須恵器	坏蓋	12.4	4.1	-	外：灰褐色 内：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
23	6	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.2	4.1		全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
23	7	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	12.0	4.4	-	外：淡青灰色 内：赤褐色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
23	8	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	11.1	4.7	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	外面天井部に平行するヘラ痕あり。	
23	9		A-16	包含層	須恵器	坏蓋	13.0	-	-	外：灰褐色 内：暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		
23	10		B-14	SX05	須恵器	坏蓋	14.4	-	-	外：暗青灰色 内：赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
23	11	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.2	4.2	-	外：淡灰褐色 内：赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	外面の中途に1条の沈線あり。	
23	12	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.4	4.8	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	外面の中途に1条の沈線あり。	
23	13	家25	B-13	包含層	須恵器	坏蓋	13.4	4.3	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ		
23	14		B-12	包含層	須恵器	坏蓋	12.6	4.3	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ	外面天井部に1条の沈線を引く。	
23	15		B-14	SX05	須恵器	坏蓋	13.2	4.8		全面：灰褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ		
23	16	家25	B-14	SX05	須恵器	坏蓋	12.2	4.1	-	外：淡青灰色 内：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ	外面天井部に1条の沈線あり。	
24	1		B-14	SX05	須恵器	坏身	11.6	-	-	外：暗青灰色 内：暗灰褐色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	2		C-13	SX03	須恵器	坏身	12.0	-	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	3	家26	C-13	SX03	須恵器	坏身	12.0	3.6	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	4		C-13	SX04	須恵器	坏身	10.4	4.1	-	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	5		B-14	SX05	須恵器	坏身	10.6	4.2	-	外：淡青灰色 内：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	6		C-13	SX05	須恵器	坏身	10.2	3.6	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
24	7	家26	C-13	SX05	須恵器	坏身	10.7	3.3	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ		完形品
24	8	家26	B-13	SX01	須恵器	坏身	11.5	4.8	-	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	外面に1条の沈線あり。	完形品
24	9		B-13	SX01	須恵器	坏身	13.2	3.9	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	外面天井部に1条の沈線あり。	
24	10		B-14	SX05	須恵器	坏身	9.8	-	-	全面：淡灰褐色	回転ナデ	回転ナデ		
24	11		C-13	SX03	須恵器	坏身	11.6	-	-	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ		
25	1	家26	B-14	SX05	須恵器	高坏	16.0	(10.0)	10.4	全面：灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	坏部外面に段をもつ。	
25	2	家26	C-13	SX03	須恵器	高坏 (脚部)	-		10.3	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ	三角形の透かし二方。坏部下方に段をもつ。	
25	3	家26	B-14	SX05	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	11.0	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	透かし二方	
25	4	家26	C-13	SX03	須恵器	高坏	15.0	9.8	10.1	外：青灰色 内：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、坏部の一部ヘラケズリ	三角形の透かし二方	
25	5	家26	B-14	SX05	須恵器	高坏	15.8	10.0	9.8	外：淡赤褐色 内：青灰色	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ	長方形の透かし二方	
25	6		B-14	SX05	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	10.2	全面：赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	透かし二方	
25	7	家26	B-12	包含層	須恵器	高坏	13.9	10.0	10.3	外：暗青灰色 内：灰白色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、坏部の一部ヘラケズリ	三角形の透かし二方	
25	8		C-13	SX02	須恵器	高坏	14.4	8.9	9.8	外：暗青灰色 内：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	三角形とヘラによる切り込み状の透かしあり。	重機掘削
25	9		B-14	SX05	須恵器	高坏	15.7	9.2	9.4	外：暗淡青灰色 内：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、坏部の一部ヘラケズリ	透かし二方	
25	10		B-14	SX05	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	坏内部に1条の沈線あり。	
25	11		B-14	SX05	須恵器	高坏 (脚部)	-	-	-	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
25	12	家27	B-14	SX05	須恵器	低脚坏 (脚部)	-	-	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
25	13	家27	B-14	SX05	須恵器	低脚坏 (脚部)	-	-	10.6	外：黒褐色 内：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ		

25	14	表27	B-14	SX05	須恵器	把手付蓋	10.7	10.0	3.1	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、カキ目、ヘラケズリ	把手を欠く。	
25	13	表27	C-13	SX02	須恵器	壺（胴部）	9.4	-	-	全面：やや灰灰色	回転ナデ	回転ナデ		
25	16	表27	B-14	SX05	須恵器	短頸壺（蓋部）	10.6	-	-	全面：黒褐色	回転ナデ	回転ナデ		
25	17	表27	B 14	SX05	須恵器	長頸壺（底部）	7.4	-	-	外：淡黒褐色 内：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
25	18	表27	B-14	SX05	須恵器	瓶（底部）	-	-	-	外：淡黒灰色 内：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
25	19		C-13	SX01	須恵器	甕（底部）	-	-	10.6	全面：青灰色	ヨコナデ、タタキ	タタキ、カキ目、ヨコナデ	比較的ヘラ記号あり。高台が付く。	
25	20		B-14	SX05	須恵器	甕（口縁部）	-	-	-	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ	頸部に波状文を施す。	
25	21		B -12	包含層	須恵器	甕	-	-	-	全面：淡青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2条の沈線間に波状文を施す。	
25	22	表27	B 14	SX05	須恵器	甕	-	-	-	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ	2条の沈線間に突帯文を施す。	
26	1	表28	C-13	SX04	須恵器	坏	12.4	4.0	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ、回転糸切り		
26	2	表28	C-14	包含層	須恵器	坏	13.8	4.0	-	全面：灰青色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、静止糸切り		
26	3	表28	B-14	SX05	須恵器	高台付坏	13.6	4.1	9.0	外：淡灰青灰色 内：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	低い高台が底部の端に付く。	
26	4	表28	B 14	SX05	須恵器	高台坏	16.4	6.2	9.6	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ	低い高台が底部の端に付く。	
26	5	表28	A-14	SX05	須恵器	高台付坏	-	-	8.5	全面：淡赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り	低い高台が付く。	
27	1	表29	B-12	包含層	土師器	壺	14.6	23.2	-	外：赤色 内：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケ目	表面が磁滅気味。	赤色顔料塗布
27	2	表29	B-13	包含層	土師器	壺	18.8	26.9	-	外：にぶい黄橙色 内：黒褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
27	3	表29	B-12	包含層	土師器	壺	18.4	-	-	全面：黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ、ナデ		煤付着
27	4	表29	B-13	包含層	土師器	甕	19.0	29.0	-	全面：橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
27	5	表29	B-13	SX01	土師器	甕	20.4	-	-	外：淡黄橙色 内：褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
27	6	表29	B-13	SX01	土師器	甕	27.0	25.0	-	全面：橙色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目		煤付着
28	1	表30	B-13	SX01	土師器	甕	19.0	-	-	全面：淡橙色	ハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
28	2		B-13	SX01	土師器	甕	18.0	-	-	全面：橙色	ハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ		
28	3		B-13	SX01	土師器	甕	22.4	-	-	外：淡色 内：黄橙色	ヨコナデ、指頭圧痕、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目、指頭圧痕		煤付着
28	4	表30	B-12	SX01	土師器	甕	21.6	-	-	外：赤褐色 内：にぶい橙色	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ		
28	5		B-13	SX01	土師器	甕	15.0	-	-	外：明褐色 内：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
28	6	表30	B-12	SX01	土師器	甕	16.4	-	-	外：淡灰～淡橙褐色 内：淡橙色	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
28	7	表30	B-12	SX01	土師器	甕	19.0	-	-	全面：淡黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ		
28	8	表30	B-13	SX01	土師器	甕	22.0	-	-	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケ目		
28	9	表30	B-12	SX01	土師器	甕	21.4	-	-	全面：橙色～灰白色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
28	10	表30	B-12	SX01	土師器	甕（底部）	-	-	-	全面：淡黄橙色	ナデ	ナデ		
28	11	表30	B-13	SX01	土師器	甕（底部）	-	-	14.6	全面：淡黄橙色	ナデ	ナデ	平底	
29	1	表31	B-12	SX01	土師器	壺	18.6	-	-	外：灰黄色 内：にぶい黄橙色	ハケ目、ヘラケズリ、ナデ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ハケ目		
29	2	表31	B-13	SX01	土師器	壺	20.2	29.4	-	外：淡橙褐色 内：淡色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ハケ目、ヘラミガキ		
29	3	表31	B-13	SX01	土師器	壺	18.8	-	-	外：淡橙色 内：灰白色	ヨコナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕、輪積み痕	ヨコナデ、ハケ目	胴のよ部から底部は人為的に破壊されている。	煤付着
29	4	表31	B-13	SX01	土師器	壺	-	-	-	外：淡黄橙色 内：褐色	ヘラケズリ、ナデ、指頭圧痕	ナデ		
29	5	表31	B-13	SX01	土師器	甕	17.5	-	-	外：明赤褐色 内：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ハケ目		

29	6		B-12	SX001	土師器	甕	20.6	-	-	全面：浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケ目、指頭圧痕		
30	1	表31	B-13	SX001	土師器	甕	20.9	24.6	11.4	全面：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ、ナデ	耳状の把手が付く。	黒斑有
30	2	表31	B-13	SX001	土師器	甕	24.4	26.4	9.8	外：橙色 内：明黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ハケ目、ヘラミガキ	孔１つ、貫通してない未貫孔の孔１つ	
30	3	表32	B-12	SX001	土師器	鉢	25.4	-	8.6	全面：にぶい黄橙色	ナデ、ヘラケズリ	ハケ目	口縁部下方に孔を開ける。両側穿孔。	煤付着
30	4		B-13	SX001	土師器	甕	27.6	27.8	12.6	全面：淡黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ		
30	5	表32	B-13	SX001	土師器	鉢	30.2	-	-	全面：浅黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ、板いハケ目	底部に孔はなし。内面に１ヶ所、径１cm程度の凹みあり。	
31	1	表32	B-12	SX001	土師器	鉢	26.8	-	-	全面：橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
31	2	表32	B-12	SX001	土師器	壺	-	-	-	外：淡橙～淡橙褐色 内：橙褐色	ヘラケズリ	ハケ目		
31	3	表32	B-12	SX001	土師器	壺	-	-	-	全面：にぶい橙色	ハケ目、ナデ	ハケ目		
31	4	表32	B-12	SX001	土師器	壺	-	-	-	外：にぶい橙色 内：灰黄色	ナデ	粗いハケ		
32	1	表33	B-14	SX005	土師器	高坏（坏部）	13.8	-	-	外：にぶい黄橙色 内：灰黄色	ナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕		橙色顔料塗彩
32	2	表33	B-13	包含層	土師器	高坏（脚部）	-	-	8.3	外：にぶい黄橙色 内：橙色	ヘラケズリ、ヘラミガキか	ハケ目、ナデ	低い脚	
32	3	表33	C-14	包含層	土師器	坏	12.0	-	-	全面：明黄橙色	ヘラケズリ、ミガキか	ミガキか		
32	4	表33	B-13	包含層	土師器	坏	9.6	3.9	-	全面：橙色	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
32	5	表33	B-14	包含層	土師器	坏	12.8	-	-	全面：にぶい黄橙色	剥離のため調整不明	風化のため調整不明		
32	6	表33	C-13	SX003	土師器	盤	11.2	5.8	-	外：橙色 内：にぶい橙色	ナデ	ナデ、ミガキ		完形品
32	7	表33	B-14	SX005	土師器	甕	14.6	10.2	-	外：暗赤色 内：暗褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ナデ		
32	8	表33	B-14	SX005	土師器	甕	11.2	-	-	外：茶褐色 内：にぶい黄橙色	ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕	指頭圧痕、ヘラミガキ	ミニチュア土器	赤色顔料塗彩
33	1	表34	B-13	SX001	土師器	盤	11.4	-	-	外：明赤褐色 内：にぶい黄橙色	ナデ、ヘラミガキ	ハケ目、ヘラミガキ		黒斑有
33	2	表35	B-12	SX001	土師器	盤	12.0	-	-	全面：橙色	ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、ヘラケズリ		赤色顔料塗彩
33	3	表35	B-13	包含層	土師器	盤	13.2	6.3	-	外：明褐色 内：にぶい黄橙色	ヘラミガキ	ヘラミガキ		黒斑有
33	4	表34	B-13	SX001	土師器	盤	13.4	-	-	全面：明赤褐色	ナデ、指頭圧痕	ヨコナデか、ハケ目		
33	5	表34	B-13	SX001	土師器	盤	13.2	5.7	-	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	ナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕		黒斑有
33	6	表34	B-12	包含層	土師器	坏	14.6	4.7	-	全面：にぶい赤褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ		赤色顔料塗彩
33	7	表34	B-13	SX001	土師器	鉢	16.2	14.9	-	全面：暗褐色	ヘラケズリ、ナデ	ナデ、指頭圧痕	粗い雑な造り	
33	8	表35	B-12	SX001	土師器	壺	14.2	-	-	全面：橙色	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		
33	9	表35	B-12	SX001	土師器	高坏（坏部）	16.8	-	-	全面：明赤褐色	ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
33	10	表35	B-12	SX001	土師器	高坏（外部）	20.2	-	-	外：浅黄橙色 内：にぶい黄橙色	ヘラミガキ	ハケ目、ヘラミガキ	低い脚部	赤色顔料塗彩
33	11	表34	B-13	SX001	土師器	高坏（坏部）	12.7	-	-	全面：橙色	ヘラミガキ	ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
33	12	表34	B-13	SX001	土師器	高坏（脚部）	10.6	-	-	外：赤褐色 内：にぶい黄橙色	ヘラミガキ、ケズリ	ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
33	13	表34	B-13	SX001	土師器	高坏（坏部）	13.2	-	-	全面：浅黄橙色	ナデ、ヘラミガキ	ナデ、ヘラミガキ		橙色顔料塗彩
33	14	表35	B-13	包含層	土師器	高坏	-	-	8.0	全面：橙色	ナデ	丁寧なナデ	脚は柱状になる。	
33	15	表35	A-12	包含層	土師器	高坏	-	-	8.0	全面：淡橙色	ナデ	ナデ、指頭圧痕	脚は柱状になる。	橙色顔料塗彩
33	16		B-13	SX001	土師器	高坏	7.8	-	-	全面：浅黄橙色	ヨコナデ	丁寧なナデ、指頭圧痕	脚は柱状になる。	橙色顔料塗彩
33	17	表35	B-12	包含層	土師器	鉢	-	-	-	全面：赤褐色	ケズリ、ナデ	ヘラミガキ	鷲ノ子変え	赤色顔料塗彩
33	18	表35	B-12	包含層	土師器	埦	9.0	-	-	全面：橙色	ナデ、ヘラケズリ、ヘラミガキ	ヘラミガキ		赤色顔料塗彩
33	19	表35	B-13	SX001	土師器	甕	-	-	-	全面：灰白色	ナデ	ナデ	口縁部下方にヘラによる斜めの平行沈線文帯を施す。	黒斑有

33	20	家35	B-12	包含層	土師器	甕	10.8	-	-	全面：にぶい黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ	口縁部下方に孔を1つ開ける。小形品	
33	21	家35	B-13	SX01	土師器	甕	11.0	-	-	外：暗褐色 内：灰白色	ケズリ、ナデ、指頭圧痕	ハケ目		煤付着
33	22	家35	B-13	SX01	土師器	鉢	12.6	15.8	-	全面：にぶい黄褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目、ナデ		煤付着
34	1	家36	B-13	SX01	土師器	甕	18.0			全面：赤褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		煤付着
34	2		B-14	SX05	土師器	鉢	16.4	-	-	外：橙色 内：灰黄褐色	ヨコナデ、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラミガキ、ナデ		
34	3		B-14	SX05	土師器	甕	17.4	-	-	外：にぶい橙色 内：黄灰色	ハケ目、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		
34	4	家36	C-13	SX01	土師器	甕	14.9	-	-	外：橙色 内：黄褐色	ハケ目、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
34	5	家36	B-14	SX05	土師器	甕	14.2	-	-	外：赤色 内：浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		赤色顔料塗彩。煤付着
34	6	家36	C-13	SX03	土師器	鉢	20.6	-	-	全面：灰黄褐色	ハケ目、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
34	7	家36	B-14	SX05	土師器	甕	18.1	28.7	-	外：にぶい黄橙色 内：にぶい黄褐色	ハケ目、ヘラケズリ	ナデ、ハケ目	黒斑あり。	煤付着
34	8	家36	C-13	SX03	土師器	甕	(19.5)	-	-	全面：にぶい黄色	ハケ目	ハケ目、ナデ		
35	1	家36	B-13	SX01	土師器	甕	-	-	-	全面：明赤褐色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	平底気味	赤色顔料塗彩
35	2	家36	B-13	SX01	土師器	鉢	11.0	-	-	全面：浅黄橙色	ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヘラミガキ		橙色顔料塗彩
35	3	家36	B-13	SX01	土師器	底部			6.6	外：灰黄褐色 内：にぶい黄橙色	ヘラミガキ	ヘラミガキ	平底気味	黒斑
35	4	家37	B-13	SX01	土師器	鉢	19.2	-	-	外：灰黄褐色 内：暗黄灰色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラミガキ		煤付着
35	5	家37	B-14	SX05	土師器	甕	(19.9)	-	-	全面：橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ハケ目、指頭圧痕	ヨコナデ、ヘラミガキ、指頭圧痕		煤付着
35	6	家37	B-12	SX01	土師器	鉢	15.0	-	-	外：赤褐色 内：にぶい橙色	ヘラミガキ、ヘラケズリ	ハケ目、ヘラミガキ		赤色顔料塗彩。煤付着
36	1	カラ—	B-12	SX01	土師器	甕	15.9	25.8	-	全面：赤色	ヘラケズリ、ヘラミガキ、ハケ目	ハケ、ヘラミガキ	ほぼ完形	橙色塗彩。煤付着
36	2	カラ—	B-12	SX01	土師器	甕	22.4	-	-	全面：橙色	ヘラミガキ、ナデ	全面ヘラミガキ		
37	1		C-13	SX03	土師器	把手付甕	28.4	30.6	-	全面：にぶい橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケ目	把手が2個付く。	
37	2	家37	C-13	SX03	土師器	把手付甕	21.6	-	-	外：黄橙色 内：浅黄橙色	ハケ目、ヘラケズリ	ヨコナデ		黒斑
37	3	家37	B-13	SX01	土師器	把手付甕	21.5	27.0	-	外：浅黄橙色 内：橙～明赤褐色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラミガキ		
37	4	家37	B-14	SX05	土師器	甑	32.2	29.5	-	全面：浅黄橙色	ヨコナデ、ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目	底部に孔を2つ開ける。	黒斑
37	5	家37	C-14	包含層	土師器	土製支脚	-	-	-	全面：にぶい黄橙色		指頭圧痕	底部上底。穴を穿つ。	
38	1	家38	B-14	SX05	土師器	鉢	19.6	-	-	全面：浅黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケ目	ハケで波状文を描く。ヘラで上下2条の波状を引く。	煤付着
38	2		B-14	SX05	土師器	鉢	10.8	-	-	外：にぶい黄橙色 内：橙色	ハケ目、ヨコナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
38	3	家38	C-13	SX04	土師器	鉢	20.6	18.5	-	外：黄褐色 内：にぶい黄褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ	底部平底気味	煤付着
38	4	家38	B-14	SX05	土師器	甕	23.6			全面：浅黄橙色	ハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
38	5	家38	C-13	SX03	土師器	壺	17.0	-	-	全面：にぶい橙色	ハケ目、ナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ナデ		煤付着
38	6	家38	B-14	SX05	土師器	甕	24.4	-	-	全面：橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
38	7		B-14	SX05	土師器	鉢	17.0	-	-	全面：褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目		煤付着
38	8	家38	B-14	SX05	土師器	甕	-	-	-	全面：明黄褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ハケ目		黒斑有
39	1	家32	B-14	SX05	土師器	竈	23.0	32.3	-	外：浅黄橙色 内：にぶい黄色	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、指頭圧痕	ハケ目、指頭圧痕		
40	3	家37	C-14	包含層	土製品	土錘	長さ 5.3	厚さ 2.7	重さ 36.0	全面：にぶい黄橙色		指頭圧痕		
40	4	家37	B-14	包含層	土製品	土錘	長さ 3.3	厚さ 1.8	重さ 10.3	全面：橙色		ナデ		

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
41	1		2区 B-14	包含層	白磁	碗	-	-	(8.0)	全面：オリーブ灰色				Ⅳ類
41	2		2区 C-13	包含層	白磁	碗	-	-	(6.1)	全面：明オリーブ灰色				Ⅴ類
41	3		2区 B-12	包含層	青磁	碗	-	-	5.5	全面：オリーブ灰色				D類
41	4		2区 B-12	包含層	青磁	盤	(30.4)	5.7	(22.8)	全面：灰オリーブ色				
41	5		2区 C-14	包含層	備前	壺	-	-	-	外：灰黄色 内：灰褐色				
41	6		2区 B-12	包含層	備前	擂鉢	-	-	-	全面：灰色				
41	7		2区 A-12	包含層	備前	甕	-	-	-	内：灰黄色～灰白色 外：灰褐色			玉縁	
41	8		2区 B-15	包含層	美濃	鉄釉皿	(10.6)	1.9	(6.4)	全面：褐色			輪花	
41	9		2区 C-13	包含層	須恵器	鉢	29.0	-	-	外：青灰色 内：暗青灰色	口縁部　回転ナデ 体部　ナデ	回転ナデ		
41	10		3区	T-01	瓦質土器	甕	-	-	-	外：黒色 断面：灰白色	ヨコナデ	格子状タタキ		
41	11		2区 B-13	包含層	須恵器	甕	-	-	-	全面：青灰色	タタキ後ヨコナデ	格子状タタキ		胎土分析
41	12		3区	T-01	土師質土器	甕	-	-	-	外面：黒色 内面：灰色 断面：浅黄色	ハケ目後ヨコナデ	格子状タタキ		
41	13		1区 A-6	包含層	中世土師器	擂鉢	(32.6)	-	-	全面：にぶい黄色	ハケメ(横方向)、5条の擂目	ヨコナデ？		煤付着
41	14		1区 B-4	包含層	土師器	鉢	-	-	-	全面：淡黄橙色	ハケメ	ハケメ		
41	15		2区 B-12	包含層	土師器	擂鉢	-	-	(12.4)	全面：淡黄色～黄灰色	擂目	ハケメ		
41	16		4区 E-3	包含層	土師器	皿	(8.5)	2.3	(4.2)	全面：にぶい黄橙色	回転ナデ	回転ナデ、糸切り		
44	1	家39	4区 D-3	包含層	弥生土器	注口土器	-	-		全面：浅黄橙色	ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ目	肩部に貝殻腹縁による刺突文2段に付ける。	
45	1		4区 E-3	包含層	須恵器	杯身	12.4	4.4	-	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラケズリ		
45	2		4区 E-3	包含層	須恵器	高坏	-	-	10.2	外：暗青灰色 内：淡赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	2方に透かしを施す。	
45	3	家39	4区 E-3	包含層	土師器	手捏土器	7.0	3.2	-	外：にぶい黄橙色 内：褐灰色	ナデ	ナデ、ミガキ	手捏土器	黒斑有
45	4		4区 E-3	包含層	土師器	手捏土器(ミニチュア)	-	-	-	全面：にぶい黄褐色	指頭圧痕、ナデ	指頭圧痕、ナデ	手捏土器	
45	5	家40	4区 D-2	包含層	土師器	手捏土器(ミニチュア)	7.2	-	-	全面：橙色	指頭圧痕	指頭圧痕、ナデ	手捏土器	
45	6	家39	4区 E-2	包含層	土師器	坏	11.4	3.7	-	全面：浅黄橙色	回転ナデ	回転ナデ		赤色顔料塗彩
45	7	家39	4区 E-2	包含層	土師器	坏(高台付)	-	-	8.6	全面：明赤褐色	ヘラミガキ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕、回転糸切り		
45	8	家40	4区 D-2	包含層	土師器	坏(高台付)	-	-	7.2	全面：にぶい黄橙色	丁寧なナデ、ヨコナデ、回転糸切り	ヨコナデ		赤色顔料塗彩
45	9	家39	4区 D-2	包含層	須恵器	坏	11.4	4.1	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、回転糸切り	回転ナデ	外面に重ね焼痕残る。	
45	10		4区 D-2	包含層	須恵器	坏	14.2	4.6	-	全面：暗青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
45	11	家39	4区 D-2	包含層	須恵器	坏	12.8	4.1	-	全面：淡黄灰褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り、ナデ	外面に重ね焼痕残る。	
45	12		4区 D-1	包含層	須恵器	坏	16.6	5.4	-	外：淡橙褐色 内：赤褐色	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
45	13	家39	4区 E-3	包含層	須恵器	坏	13.6	-	-	外：暗青灰色 内：黒褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り	内部に焼成時の砂が付着している。	
45	14		4区 D-2	包含層	須恵器	坏	-	3.7		全面：淡灰褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
45	15	家40	4区 E-3	包含層	須恵器	長頸壺(頸部)	20.8	-	-	全面：暗青灰色	回転ナデ	回転ナデ	頸部に一条の沈線を施す。	
45	16	家40	4区 D-3	包含層	須恵器	長頸壺	11.0	-	-	外：暗赤褐色 内：青灰色	回転ナデ	回転ナデ	頸部に2条の沈線を施す。	
45	17	家40	4区 E-2	包含層	土師器	製塩土器	(13.4)	-	-	全面：浅黄橙色	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕	筒状を呈す。	
45	18	家40	4区 E-2	包含層	土師器	製塩土器	(13.8)	-	-	全面：にぶい黄褐色	ヨコナデ	ナデ、指頭圧痕	筒状を呈す。	
45	19	家40	4区 E-2	包含層	土師器	土製支脚	-	-	-	全面：橙色	粗いナデ	ハケ目、指頭圧痕	上底。背に穴を穿つ。	

第４節 ４区の遺構と遺物

４区遺構（第42、43図、図版15）　１区の東側の斜面にあたり、３段からなる棚田跡であった。B、Cの２、３区。トレンチ調査で、土器が出土した20m四方を対象とした。土層観察により、水田が造成されるまでは、急な斜面であり、鉄穴流しの時の溝が確認された以外は、遺構は存在しなかった。溝は２本あり、幅は広く、調査区の上方と中程に存在した。上方の溝は地山を削って掘られており、広いところで１m程あり、深さは50cmであった。東から西方向へ延びる。内部には真砂土と拳大の山石が混ざる。下方の溝は堆積土に掘られていたため、トレンチの場所でしか確認できなかった。幅は上部1.3m、底部１m、深さは40cmあり、上の溝同様に真砂土と拳大の山石が混じる。この２本の溝は、水田が造られるよりは古い時期のものではあるが、遺物が出土していないため時期は特定できない。なお、1988年（明治21）作成の「仁多郡佐白村切図」（仁多町役場保管）によれば、調査区の字名は「仲田」で、その上方の１筆おいての字名は「鉄穴内」があり、その北の墓地跡付近にも「鉄穴内」が１カ所に認められる。しかし、鉄穴流しが、いつ行われていたかは定かではない。

層序は、水田土壌の下に灰色や茶色の砂を含む砂質土があり、その下に遺物を含む暗灰色砂土（３、５、13層）が存在する。

４区遺物　石錘や擦石の石器と縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器、土製支脚などが

家ノ脇Ⅱ遺跡出土陶磁器・土器一覧（国産品）

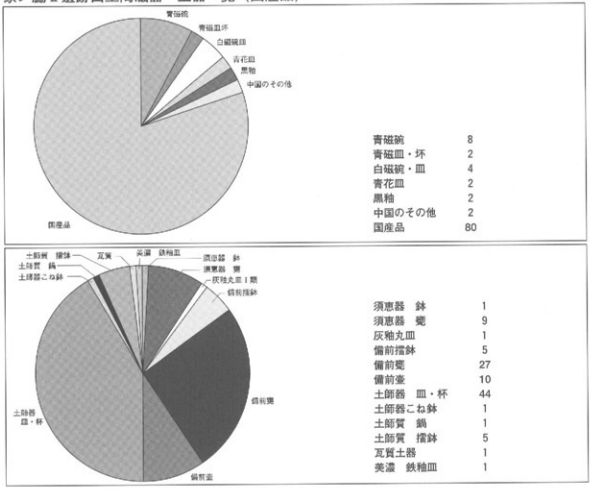


表7　家ノ脇Ⅱ遺跡出土陶磁器・土器一覧

遺跡名	所在市町村	遺跡の性格	青磁碗												青磁皿坏				
			龍B0	龍B1	龍B2	蓮B3	蓮B4	雷C2	雷C3	蓮D	龍E	景	龍泉Ⅰ	不明・その他	龍Ⅳ	櫛花A	櫛花B	景	不明・その他
家ノ脇Ⅱ	仁多町亀白 飯布施	集落		2						3	3		1	龍泉Ⅰ類　1 不明その他　1					同安　皿　1 その他　1
		点数	11												2				
			8％												2％				

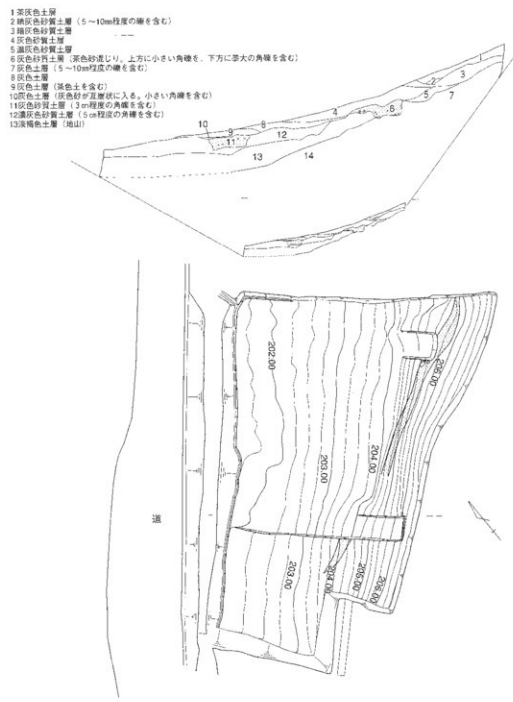
白磁輪皿							青花碗						青花皿					
A	B	C	D	E1	E2	不明・その他	B	C	D	E	車南	不明・その他	B	C	D	E	車南	不明・その他
				1		皿Ⅳ類　1 碗Ⅳ類　1 碗Ⅴ類　2								2				1
5							0						3					
4％													2％					

天目	黒釉	その他の中国製品	倒鮮王朝			東南アジア	国産品	
			碗皿	瓶	不明			
	3	青磁盤　3					須恵器　鉢	1
							須恵器　甕	9
							瓦軒丸瓦Ⅱ類	1
							備前擂鉢	5
							備前壺	27
							備前甕	10
							土師器　皿・坏	44
							土師器こね鉢	1
							土師質　鍋	1
							土師質　擂鉢	5
							瓦質土器	1
							美濃　鉄釉皿	1
0	3	3	0	0	0	0	106	
2％		2％					80％	

計　133　点

コンテナー１箱出土している。これらの遺物は各時代のものが混ざり、かつ、斜面中程に広く散布しており、斜面上方部の水田跡や畑跡にあった遺構がその後の開墾等で壊され、斜面に流れ込んだものと考えられる。

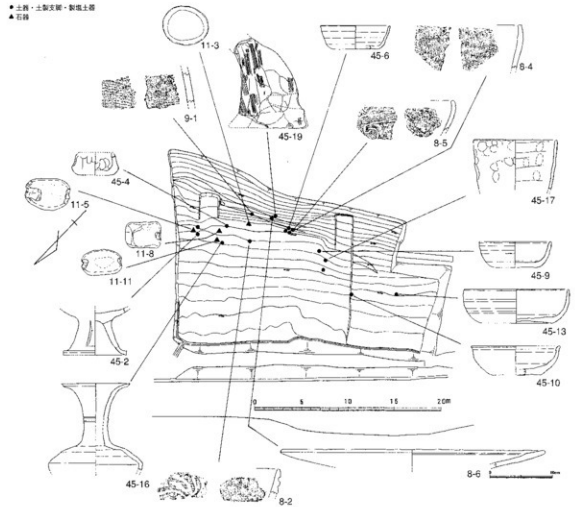
縄文土器（第８、９図）は、中期末から後期にかけてのものが少量ある。弥生土器（第44図）は、後期末の複合口縁に注口をもつ壺が１個斜面下方から出ている。肩部に貝殻腹縁による刺突文が２段に施されている。須恵器（第45図）は、古墳時代後期から奈良時代にかけての時期で、奈良時代のものが多い。糸切底をもつ坏が多い。壺は、頸が長く、口縁部にかけてラッパ状に開く。下部に絞り目が付く。土師器は、甕の破片が多いが、高台が付く坏もある。６、８には赤色顔料が塗



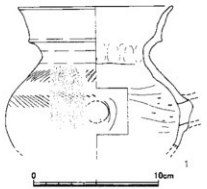
第42図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区測量図（１／300）

られている。3～5は手捏土器で、碗形のものである。17、18は製塩土器で、表面に指頭圧痕が残る。19は土製支脚で、突起が2個つく。形態は2区の第37図4と類似する。

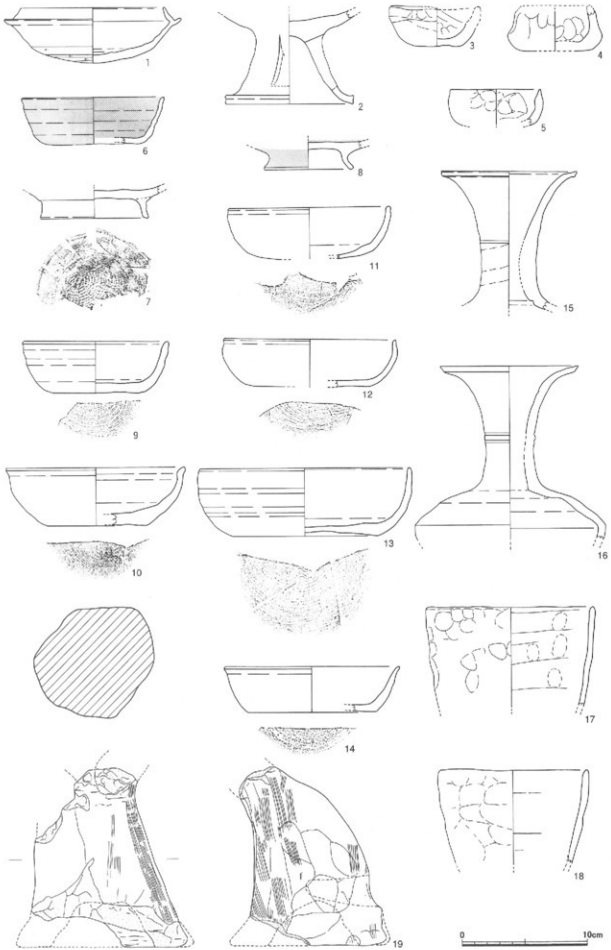
石器（第11図）には、石錘6個と擦石1個がある。石錘は切目石錘で、7が片面のみ打ち欠いているが、その他は両面を欠いている。重さは89 gから219 gまでであり、石材は花崗岩1個以外は流紋岩である。斐伊川から採集したものであろう。3の擦石は丸い川原石で、安山岩である。手に握れる大きさで、片面が水平になるまで擦られている。



第43図　家ノ脇Ⅱ遺跡4区遺物出土位置図



第44図　家ノ脇Ⅱ遺跡4区出土弥生土器実測図（1／3）



第45図　家ノ脇Ⅱ遺跡４区出土遺物（須恵器・土師器・製塩土器・土製支脚）実測図（１／３）

第5節 小結

家ノ脇Ⅱ遺跡の概要を記述してきたが、最後に斐伊川河床の変遷と2区の集石と土器溜り（SX01）の性格を述べて結びとしたい。

斐伊川河床の変遷

本遺跡は斐伊川の川岸に所在する縄文時代から中世に至る複合遺跡である。特に、縄文時代から古代までは、遺跡が所在する狭隘な谷は斐伊川とその氾濫原であり、住居地にはなっていない。次に、堆積層で特記する事としては、2区の北側トレンチ東壁に火山灰が認められたことである（第13図）。2区西側の河床跡はそれよりも古いことになり、縄文時代後期以前の斐伊川河床ということになる。この火山灰は三瓶太平山降下火山灰と推定される。なお、木次町北原本郷に所在する家の後Ⅱ遺跡（注1）でも知られている。

縄文時代から弥生時代にかけての河床跡は1区と2区で認められている。2区においては火山灰下の河床と上面の河床とは10～20cmの砂層が状まるだけの比高差である。また、古墳時代後期においても場所により比高差はまちまちではあるが、2区の土器溜りでは数十cmの差しかない。なお、1・2区とも斐伊川の東側の川岸にあたり、調査の結果、縄文時代から現代まで変わることなく、川岸であったことが知られた。

集石と土器溜り（SX01）

2区の集石と土器溜り（SX01）は斐伊川の流れに隣接し、当時は川沿いの湿地状態の場所である。次に、流路跡は2区の東側の山合いから洪水時に、流れ込んだ流路跡（ガリ浸食）で、普段は斐伊川沿いの河川敷の草原であったろう。このような場所に、日常使用する土師器、須恵器の坏、壺類、高坏、甕をはじめ、甑、移動式竈などの煮炊具まで大量に置いている。SX01の集石と複数の流路跡の存在からすると、幾度かに分けて、土器などの遺物がこの場所に廃かれたと考えられる。

移動式竈が10個程確認できるので、煮炊きを伴う行為は10個以内と考えられる。一方、土製支脚は極めて少ない数で、図化した1個以外に2個体がある。なお、甑については、反対にかなりの数にのぼる。図化したのは一部であり、把手は82個で、41個体分となる。しかし、把手付甕も少量存在するので、甑は30個前後と推定される。次に、これらの土器の時期は、須恵器からすると出雲4期から5期までであり、古墳時代後期の短い期間といえる。

同様な立地の遺跡としては、大原郡木次町家の上遺跡がある。斐伊川との比高5mの河岸段丘上に位置し、水路状遺構や配石遺構などが検出され、周囲から多くの須恵器や土師器などの土器と手捏土器が出土している。また、井泉付近から土馬が1個発見され、古墳時代末から平安時代初めにかけての水に関わる祭祀と考えられている（注2）。

湧き水の祭祀遺跡としては家ノ脇Ⅱ遺跡の下流500mにある円満寺遺跡が挙げられる。平成14、15年度に調査が行われ、巨石に囲まれた7×9m余りの場所で、土器溜りが見つかり、7世紀後半から8世紀初めの大量の須恵器と土師器が出土している。その他、土馬や手捏土器が見つかっている（注3）。調査者は巨石の付近は水が滲み出る所にあり、水に関わる祭祀と推定されている。この遺跡でも手捏土器は僅かで、家ノ脇Ⅱ遺跡と同じく日常生活で使用する土器が多く発見されている。円満寺遺跡の立地は山腹に所在し、斐伊川との比高差は15mを測る。

また、祭祀に使用した木製品や土器を川岸から河床へ投棄した例は八束郡八雲村の前田遺跡があ

る（注４）。河道Ｃの水際には貼石があり、川と陸地を区画したと考えられている。古墳時代前期から続く遺跡ではあるが、出土品が多いのは出雲４期で、家ノ脇Ⅱ遺跡と時期も合う。家ノ脇Ⅱ遺跡の場合は、土器を谷の水が流れ込む川岸の河床の礫面に置いていた。そこは川岸と礫面・砂の河原面（写真２の風景）という場であり、意識的に場所を選んでいると推定される。

昨年度に報告された家ノ脇Ⅱ遺跡３区検出の集石と土器溜まりは、斐伊川の川砂の上に堆積した黒褐色土層上面にあり、祭祀跡か土器の廃棄場所かと推定されている（注５）。河川敷と段丘上との場所の違いはあるが、土器の時期や種類、また、集石がある点などは２区と同じであり、一連の行為が行われた跡と考えられる。

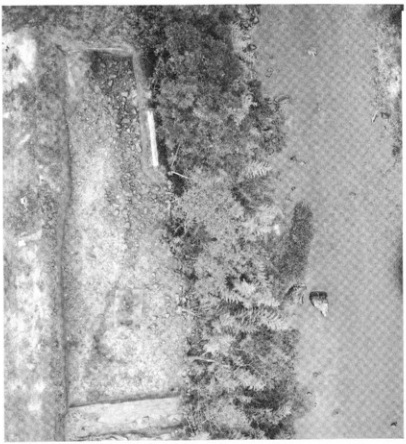
家ノ脇遺跡２区では、祭祀遺跡から出土する手捏土器や滑石製品および刀形などの祭祀にかかる木製品などは認められないものの、赤色塗彩され、器面が磨かれた土師器の高坏や甕、さらに、共食を示す竈や甑など炊飯道具も多く出土している。また、遺跡立地が狭隘な谷間の斐伊川河川敷にあたる点などから、２区は古墳時代後期の川辺の祭祀跡と推定される（注６）。

注１、『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２－家の後遺跡・垣ノ内遺跡－』
島根県教育委員会　2003
注２、『尾原ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書－家の上遺跡・石壇遺跡－』
木次町教育委員会　1998
注３、『肥乃河上考古だより』No. 9　仁多町教育委員会　2003
注４、『一般国道 432 号道路改良工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－前田遺跡（第Ⅱ調査区）』八雲村教育委員会　2001
注５、『尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１－尾白１遺跡・尾白Ⅱ遺跡・家ノ脇Ⅱ遺跡３区・川平Ⅰ遺跡－』島根県教育委員会　2003
注６、祭祀遺跡については島根県古代文化センターの錦田剛志氏から多くの教示を得た。

写真２　２区調査風景（北から、手前は縄文時代の斐伊川河床跡）

家ノ脇Ⅱ遺跡写真図版

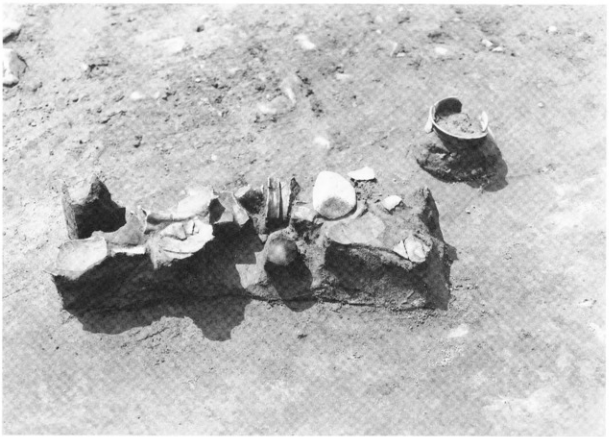
家ノ脇Ⅱ遺跡と妻伊川（航空写真・北から）



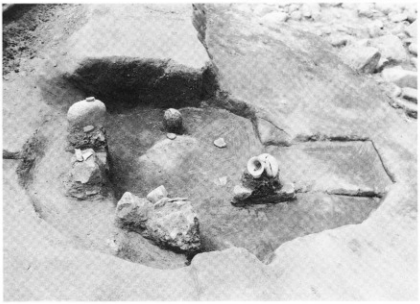
1区南調査区（航空写真）

家ノ脇Ⅱ遺跡図版2

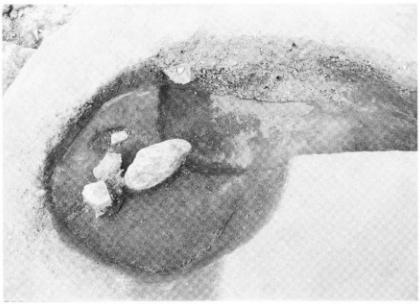
1区南調査区（北から）



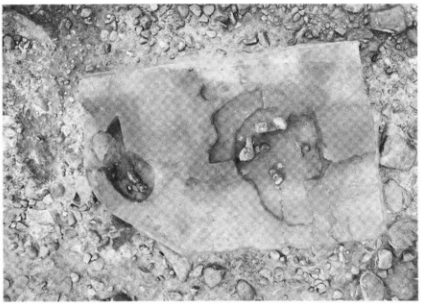
1区南調査区土器溜り



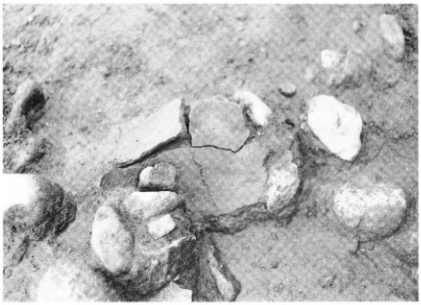
1区南調査区 SK01



1区南調査区 SK02



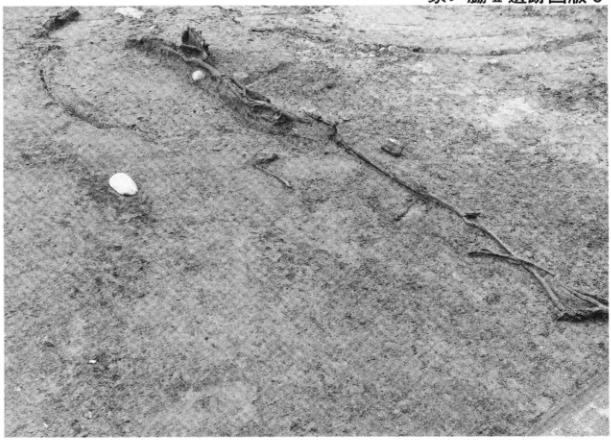
1区南調査区 SK01・02
（航空写真）



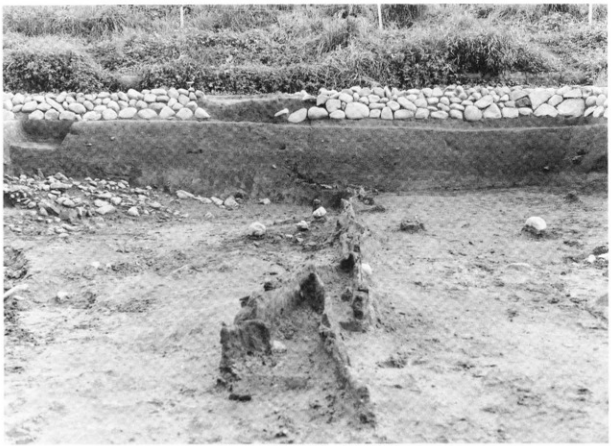
1区南調査区斐伊川河床跡
縄文土器出土状況

2区斐伊川河床跡弥生土器
出土状況

2区斐伊川河床跡弥生土器
出土状況

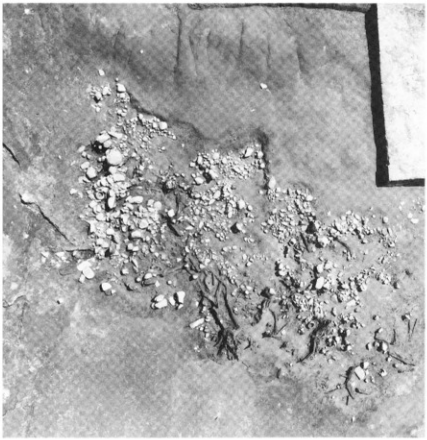


2区木列検出状況（南から）



2区木列検出状況（西から）

2区全景（北から）



2区集石・土器溜り（SX01）と立木痕

2区流路跡（北から）

2区集石・土器溜り（SX01）
と立木痕（南から）

2区集石・土器溜り（SX01）
と立木痕（東南から）

2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

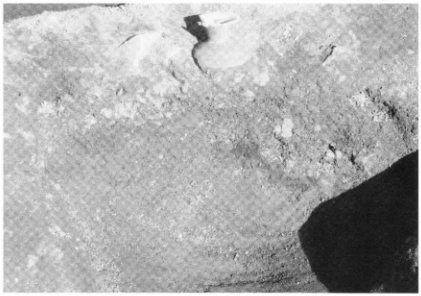
2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況最下層

2区集石・土器溜り（SX01）
下層の遺物と斐伊川河床跡
（東から）

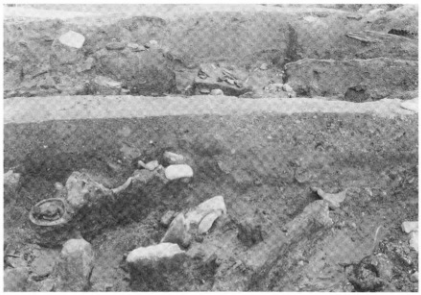
2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

2区集石・土器溜り（SX01）
土器出土状況

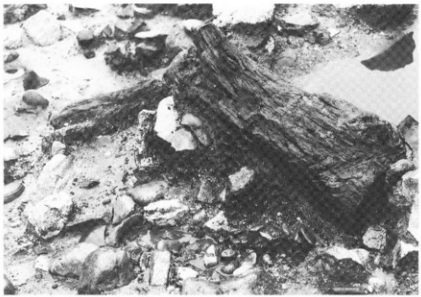
2区流路跡（SX05）の土器
出土状況



２区流路跡（SX02）ガリ浸食と須恵器（西から）

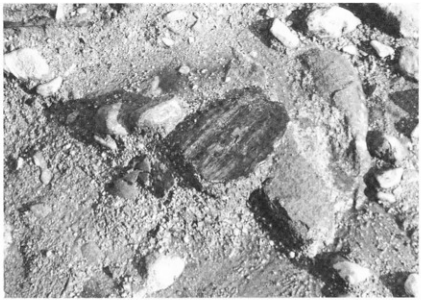


２区集石と土器溜り（SX01）（ベルトにガリ浸食跡が認められる。南から）

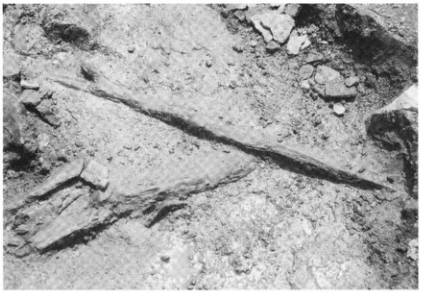


２区集石と土器溜り（SX01）流木と土器の出土状況

2区集石・土器溜り（SX01）
木器出土状況



2区集石・土器溜り（SX01）
木器出土状況



2区集石・土器溜り（SX01）
流木出土状況